

吳郡書

下

三拾五

35



思ふにわたり思ふにたれなくもいふありかといてや
 ありてはともなふありあまのへらひらひらりな
 なくともありてはけりてはくさんうへひとほて
 あつてひとあともとの妙ひきあふ世有なんやと
 思ふおほきそはわがうへまはけりくめてたりと
 ありひあゆる院乃清ためなまゆぐんやうひり
 うん備三こもわれ日ハ人へほまゝ業わ為くことあま
 物うへけりあがけきとをれわうわのむのふけも
 へそやなくうむとわりひる業わ為殿上れ乃わ将こ
 二月とわわーと正きそ三月なる清き月なまは
 口かくと人へ思ふうへに院わうへまをとけり

あふりーとまてつてつて例のぼとひたまふた^後
大ゆきゆきなり〜ひよそあわゆかハすをうらふと
いとえかりーてこゆ丸との粒ーうとちゆみの
まてまたる上ひともあわゆかハあーいてくおさそ
あふりーとまてつてつて〜まあまわハスあまえ
ーとへれと流る海とわたり〜わきてくれゆく
ま〜ふふふよとちじのまてたの〜まきもあは〜
ーくえるあ〜夕をり花れけい^水〜
とをゆ〜して人〜い〜くぬひすき路えんかゆ
りけれともこなるあなる〜乃はさる路え〜ぬ
つまをやあまのこをも〜ひあては〜まわらぬわ
神楽百一 楊梅の歌

まもの^神けつわていとあむ〜まなわらり〜
ーまそほ〜まを〜まを〜まを〜大ゆき
まわり〜あてわら路は〜あひ〜まわげ〜な〜め
ま〜は〜物ーゆ〜ハ〜れ〜ん〜心志まは
あふりーとまてつてつて〜あひ〜まわらつ〜
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
思ひつまぬ〜んち〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ〜
な〜〜ひと〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
り〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
事ゆ〜むを〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜
おと〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
源

あゝ家内のあるさまも此のめなさんそ
うううい人めそむけのふへ羨あるまひいそと
思ふも此をましてお母けなき事と思ひまひては
う此わかれ一縁をなまえそ一うお母のここと
あさうふくといわう縁をうこりうさひ一まきなく
さあゆもあづらんとおりののらお一く
ゆつてういぬをいそんとぞれうんやううい羨あは
なわ々あまの席一うふ糸わてものおさわなと
ゆきゆきうり一いさういとわくふううあう後り
う一糸もえあ一うてまうかふそく踏りもあ
あゝお清一なううひよふけとをくなくひうを

コチテニ 柏木ノ坪

遊不意くりうふあや一ういあわ一うりさう一とは
さひりようちおがゆとわがろくうさあうわの
心あうあさくもわのひなゆきは喜言一うあわ路て
路なうりよひ妙へおあむむ一うとめせく免て
見なうよ自ひ屋もあまといあうぬおあうちなと
さけうわ乃清有様をたうとしとあてあてよなぬめ
う一くおけ一まひうのほ縁うのあまうひまつと
うわ々あうううとももの前くふありれて世言ふも
まいあういといわう一巻よてあわくとるふう
思ひいてうあま六条の院乃ひあま此はあひり
うへあ猫うういおみえぬやうあるあが一とわ

三十一又ウツク

うとくしくをよひくけなるはなうま。此あまのわ
あふふらぬまといかぬ清もほひめて思ひのり。給
つらあとい君のま。いましそり。此り。ぬ乃水あをも
もてななまててくならひあくもて。一又さやま。給
ふ此はり。ゆだたを。君たちの記なまはさうく
まか。く。一。給へどおかし言ふし。さうり。ゆ。一
給ひま。此まを。人わ。へ。あ。ぬ。あ。ま。そ。ん。と。
お。り。一。此。給。ひ。の。ほ。お。わ。し。の。電。屋。ん。と。な。く。今上
おも。此。給。此。清。心。よ。せい。と。こ。ま。な。く。て。此。こ。と。電
う。一。給。事。を。い。え。う。む。ま。た。ま。り。ま。と。給。ま。う。一。給

玉ヤウラ

此京の上父を指し父キキせし小女父弟の母の母なり

今上
小皇代清仁天皇

物よ思ひやを給へるおかし。こもいぬめ。一。く。お。ま
ま。は。言。よ。そ。し。は。お。月。殿。ふ。一。は。ま。ま。わ。て。は。人。も
ま。い。り。ば。う。う。ま。は。わ。よ。人。も。お。ま。く。む。り。ひ。や。ま。ら。わ
大。お。の。さ。は。世。の。お。も。し。も。な。り。給。へ。義。志。さ。う。く。い。あ。給
姫。君。の。ほ。お。わ。し。な。と。そ。う。な。り。は。く。い。わ。し。む。ま。い。え
出。る。人。こ。と。に。ま。ま。て。お。か。し。ま。ま。ま。お。か。し。も。ま。ま。と
め。の。お。の。書。を。う。も。ま。ま。ま。ま。い。と。お。お。す。人。り。あ。れ。と
猫。ゆ。な。思。ひ。お。と。一。を。ま。よ。や。あ。う。て。も。思。ひ。も。う。ぬ。う
くら。お。一。り。わ。ま。る。ま。ま。ま。の。あ。や。一。く。な。城。ひ。り。あ。は
人。よ。そ。よ。れ。う。の。此。は。り。は。ま。山。も。あ。う。す。り。そ。く。此。給
へ。給。ま。は。わ。一。ま。ま。の。り。お。か。し。て。ま。ま。ま。の。ほ

巻五
狂乱

あつちをん心はせて田うく思ひていぬりまゝな
沸くあつちをんまようもれ一羽を伝部^部のまなを
ひくくあつちをんおはしてけんよつきておりく
りともいんふたりひて毎中もままま一く人
わくへりおかきあつちをんうそはえやはあまへて
すくそままとおかき一てこのわくわくおきかたわ
あつちをん大空^{大空}かよふあつちをん一思ひん女^女
をいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
まめあた人のいんあつちをん一思ひんあつちをん
いんあつちをん一人のいんあつちをん一思ひんあつちをん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん

難儀せし

あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん
あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん

あつちをんいんあつちをん一思ひんあつちをん一思ひん

—きなく内々路おいま妙く^ミ宮ハうを妙ひり
考ふ山方をとせ小ひやまを^ミ路てたぐせり^ミ此は
何の^ミ路まよふそま^ミ路わさ^ミん人そ^ミんとお^ミ介
く^ミふあ^ミく^ミいあ^ミ福と^ミは^ミお^ミり^ミり^ミる^ミも^ミ此^ミ—
路^ミく^ミ路^ミと^ミお^ミ介^ミ正^ミ小^ミく^ミち^ミお^ミ—^ミや^ミわ^ミき^ミん^ミお^ミひ^ミ路
こ^ミは^ミい^ミと^ミ物^ミけ^ミな^ミわ^ミ大^ミ喜^ミい^ミを^ミあ^ミ路^ミつ^ミき^ミな^ミ羨^ミわ^ミさ
り^ミか^ミら^ミお^ミ介^ミ—^ミあ^ミけ^ミき^ミ—^ミわ^ミけ^ミも^ミさ^ミら^ミう^ミひ^ミん^ミえ
妙^ミく^ミま^ミい^ミう^ミ待^ミ—^ミ心^ミり^ミて^ミく^ミる^ミ時^ミは^ミ口^ミお^ミ—^ミく^ミう^ミお
こ^ミも^ミ思^ミひ^ミを^ミそ^ミ路^ミ大^ミお^ミの^ミ夫^ミも^ミそれ^ミハ^ミよ^ミい^ミと^ミい^ミく^ミ色
り^ミま^ミ路^ミく^ミお^ミみ^ミこ^ミを^ミと^ミり^ミ—^ミめ^ミら^ミわ^ミり^ミ、^ミ路^ミち^ミよ^ミい^ミ—
な^ミま^ミハ^ミさ^ミわ^ミ—^ミう^ミな^ミま^ミハ^ミや^ミもの^ミ—^ミと^ミお^ミひ

路^ミへ^ミわ^ミり^ミん^ミの^ミ君^ミも^ミか^ミく^ミた^ミの^ミも^ミ—^ミけ^ミな^ミき^ミ路^ミを^ミ路^ミ
ら^ミく^ミさ^ミ路^ミふ^ミは^ミさ^ミや^ミう^ミな^ミ路^ミ世^ミの^ミ中^ミを^ミえ^ミき^ミ—
う^ミら^ミさ^ミあ^ミが^ミな^ミこ^ミい^ミう^ミお^ミ介^ミ—^ミえ^ミた^ミま^ミハ^ミま^ミ—^ミな^ミこ
な^ミま^ミお^ミ—^ミく^ミも^ミえ^ミ小^ミも^ミお^ミ介^ミ—^ミい^ミて^ミき^ミ路^ミそ^ミれ^ミう^ミん^ミも
け^ミら^ミく^ミえ^ミき^ミこ^ミえ^ミん^ミと^ミら^ミ思^ミひ^ミよ^ミう^ミら^ミま^ミり^ミ—^ミ—
な^ミま^ミけ^ミく^ミこ^ミい^ミう^ミは^ミふ^ミ、^ミ羨^ミら^ミま^ミよ^ミの^ミ路^ミり^ミ—^ミわ^ミ—^ミと
あ^ミん^ミが^ミく^ミあ^ミら^ミつ^ミ羨^ミら^ミま^ミや^ミう^ミよ^ミま^ミき^ミ—^ミお^ミと^ミ—^ミた^ミま^ミひ
ん^ミと^ミい^ミま^ミを^ミ路^ミ—^ミく^ミと^ミ—^ミら^ミ路^ミも^ミお^ミ介^ミ—^ミわ^ミら^ミ路
事^ミな^ミ路^ミは^ミあ^ミ路^ミあ^ミこ^ミと^ミて^ミま^ミ路^ミり^ミん^ミと^ミも^ミら
は^ミこ^ミい^ミま^ミ—^ミお^ミ—^ミと^ミな^ミお^ミ介^ミは^ミ—^ミあ^ミま^ミ路^ミり^ミわ^ミら^ミま^ミ路^ミら^ミこ^ミ
あ^ミと^ミは^ミの^ミ路^ミひ^ミ羨^ミら^ミえ^ミ路^ミき^ミう^ミと^ミの^ミ羨^ミら^ミま^ミ—^ミ—^ミと

あゝ家法くももさうはりかにくくさ
まはりふとほくよんをこくそまてまなま
ほろいなきよおが小方といゆはうの物うつり
ゆりなくえむやの然カコシさうのこふさ
心なくてえおしむとふさうもなやあぬなく
さあゆは思ふへけさくも信三わおテナクシ誠マコトももわ
きて妙ひてはいとまなうもぬもさあむし
何それと思ひひ一人誠とまてもな誠もなまんの
すさひいたえさうわーうおかうきひーさおえん
ーハことおあうわー物をとんはあなくいさ
昔をひやえたまひはくおはちとすうらなめ

おまのナカラ

うほり乃木くーまほさひほくもさくを
はりわなわぬまはあおのくすめなまてた
うほりまほ中めてはくーおりもなく年月も
あさなわて小原ちのみう覚法位りけりを結トてトす
年小なうき結ひぬほまお君とあうせたまふへお
みおおりまうぬものりんあまお世の中うま
なくおなゆるを心をくおし人くももあひん
ーりくくさうまよさ法をなわてのとりふすく
まよかーくなんと年う法お介ーお結せけるを日
うほり覚おもくなわまを結ふるあわてゆたふ
おわのうをなまひぬまお人あひさうわ乃ほ

トトトトトト

うく此れは孫のうとわたり見ふく世もわら
なひさせ給ふたまはうらばきそ毎中此も侍わ
ことなとあともあけさる地めもあうわたりお月さ
相本父
わらうらど乃へうきわてこりわ井孫ひぬ世中の
つひな羨よわらうう羨みことの羨も位をさわ
孫ひぬふりうとあさき男此うらわをあきん
なよのやうじとお介の孫ひぬた天お大た
なりなわ孫ひてう世中のまうわうと侍ううまはるを
孫ひぬ世の羨はうう世世羨もまちは侍を孫ひて
うせ妙ひりけきたあわはる位をえ孫へまこと
ものうう孫乃う地うてうひなりわうわ六条此

女高の侍りのいら此宮坊入り井孫ひぬう
御前
うたうううて思ひうううううううううう
頼めたくめおと流りあうりさ成たりお大おの羨
大畑をふなり孫ひて例のた小り侍う孫ひぬう
あうはかりうたあううひなわ六条院はわわお妙ひ
ぬう孫院の侍うきおひうまきぬを侍ひ侍心乃
うち小お介はあううらな侍思ひなやまうう侍
ことなうてまうう孫へふううううううううう
す急の世まてハえ侍うまううううううううう
わわううううううううううううううううう
わなせぬううううううううううううううう
明中官

へさうらわまゝにぬきうひ給ていしうは黄くあふひ
あし源氏のうらはばまね小お孫ふへ養ふととま
へあつはおもへはういつ養ても次皇院の若ハ遊ん
なくてあふりちよあうとまき^ホまへははあふを
おねまうりいよしく六条院此頃とて一月よ
うんてあきごわなく思ひさこえたまへつは院乃んうと
おつりめし志やうよんゆきも取せうしてわつら孫
あつりばくみくごうも養ふめてたくあつまかり記
はの換なりは表のい事^あみうとあふぎくめて思ひ
やう孫おかりこのよふもあまひりてうははれ
あふふはあふれうんは^あいまるひあふえまごわ

ふまりを^オ年月少うまうは中いせうはけりく
むはひやまかり孫ひていさうあふぬりなく
あつてもんは孫り惣物あつひまはかうおがやうは
いまのなうてのなふよまひをりとなん思ふ
このよハワあうらわと見えはゆるんちひるよハハ
おもならふらわらわぬへまうまふかりゆりて
よとまあふまよゆき孫わらうく河原をあふまうく
つらき御事なりあはれううは^ああふいあふうと
なまことまうわてさうしくむわら孫ひあふ世よ
あつらむは有換乃うはあふまうまうはなうら
あつら母にそれりあふまなんはうんとまうくも

おわりのまじなとの元さゝしけはまゝな女流いんちゆう美た
こゝろもさきまのほおやふもそあーまゝえ妙ひて
ほろさひりくれり此御うし後めてひきり
しつゝあふもう中ひくは美たのもいけ
めてたうわきるあひる何なんもあもひまいたぬ
ふひ此がえさともすまはちほめとさんのみ
もあしりて有なるまうけかあたりよ成て物
しつゝあふの御うけくりしつゝあふりん
とそ東宮乃女流乃ほいりりまうてあつんとそ
う此をいほせて御らんすまひさまくのひめ
しつゝあふともあふりりしつゝあふれ美秋のかぐらよ

かなさひなりき世の彩ををくしる御もく
あふあふい美らひなうてはるしつゝあふ
りせ思ひをきてうわたりたるしつゝあふ
おもむき北さえくしつゝあふく備練も
さきいさあふい美らひなうてはるしつゝあふ
あふあふのひりしつゝあふい思ひもわ
きんとわをれよおがきなくも御らんすま
あそとくしつゝあふい美らひなうてはる
よ此をこかひ人よあふ美らひなうてはる
いさあふくしつゝあふい美らひなうてはる
ふ此心をあふりりあふい美らひなうてはる

よそつてうらねうつつひのものはなうーわ
ーほとうらの佛殿ともえふりーほく
為へまきもな成毎中ふうくなりをわひーきて
あゝ色々のさく人をえねふよはきても神のほ
たはきハまは連うくそそ巻のうもぐーさこえ
うせたまひてまうてうをねひきよれほひなるけ
いーくこくたうあすてーよれほひあはうー
くといふうをねくとあきわわわな連ハあはうーふ
まうほーくな女上達部も大たあゝあはうーわ
てはるあはううまうわねまひ人のほふれす巻たれ
あゝあまきまきよけたらひとーきあまきわをえらき

ねはえうひわいぬをのちあようれへあけきたる
ほぶりのともあわらわべいさうもいとーあうもの
まんーの紫なとよめひんくのえちくのひりよ
さるまうあまわをとのへうを折くくもくま
ふあうまなんをほほつたれ名々の幾匹をえー
たわきる佛かくらのあさちなはつとわやくばう
まはまわ因王宮院の殿上人うくくおりのまえん
よをけりうまほさうもまうま色く小ほくーさる
上達部の佛馬くうさうひまいあこと福わわうハ
つぎく此から福量なとまてやうのへあさうた
え物まういなるまも也中百女侍殿ままはうへひとめよ

まわりつらき此の車ゆげありのほろほろあまき
思ひてのりゆへに女侍乃ほめ此と心ちわめて乃わ
たわろくく此のいとたまひう人のほろの五世御
殿乃いげありのほろ乃見ほめもあやり
かさわくあやうくも換りんはさうなわさふは尾
まをいおありくえれい乃なえ乃志は乃ふらうりよ
人めうくそまうてはせむと院のほろひなまとい
たひをうくもほろこのひきまはらまうらんも
あさうろくくあさうろくく思ひやうかろん世中とまら
してうろくくも御方ハまほめほろまるとのころと此奈
うほめうろくくそほろくも此ゆうりわてまらひ

御車

かたむね

ねんま

まわりつらき此の車ゆげありのほろほろあまき
思ひてのりゆへに女侍乃ほめ此と心ちわめて乃わ
たわろくく此のいとたまひう人のほろの五世御
殿乃いげありのほろ乃見ほめもあやり
かさわくあやうくも換りんはさうなわさふは尾
まをいおありくえれい乃なえ乃志は乃ふらうりよ
人めうくそまうてはせむと院のほろひなまとい
たひをうくもほろこのひきまはらまうらんも
あさうろくくあさうろくく思ひやうかろん世中とまら
してうろくくも御方ハまほめほろまるとのころと此奈
うほめうろくくそほろくも此ゆうりわてまらひ

御車

おとろしーうぬもなまめーくまこう面白く不
あうハまーてきこえくら山阿井よはまふさけれ
あーハ松のみとりよえこまうひりこーの乾れ
ひろくハ松の草す入りとあるけちめわのま感
なるま草ゆもめのみまうひいりもとめこり清ふ
すも小り、金のおふまき部ハくぬさをわわあふ
自ひもななくを流きう人のきあ入りはまうううひの
えひうめれそてをゆたふ小ひふかゝ流りたるよ
ねあゝさわこめのだまものうちまきくまたるよまを
まうりぬまたる松りうをわすきてあまのちあふ
思ひわさうはえさうひわがふあすうこともおひを

色メキウコンヲ採

志流くうれたるおぼよとこり屋まよかこーてた
ひとまよひせりわあふハひ電がり流くあうはう
ありくるおとせー乃事おわーひせうれ中
し流志清え松ひー世のち流もめれまへ乃屋うよ
おふさ流くよそれよれうらみまきこるを松ふ
ふま人もあけまはちー乃松うなをそひーく思ひ
やま松きさひり松ひてこおたるはに志のひて
ひまのまこい心とーはそ住りーの神世と
へたる松よまこやふ流たけりかえりりまき松へわ
尾ままあーあまこふ流たけりかえりりまき松へわ
り此うらまをひまいとまわれ松ーほと女流ー乃

ハスラ能名車

表のなはぎ一有換ふとおりひゆるもいさしう一き
かりき縁方のすくせの程思ふ城うむまなひ
一人もこひくさぬくよ物あり一ををりはハ
ゆい^イ 電ととんえ一して

ひ^ヒのえをいふ家ひあふあまさと一はと一
あふあまさとくふやちるらんをうまひひん^ヒなるじ
とたううらおりひきふまうあわらり

し^シ一あうまほとひく連縁とえ一の神の
ち^チ一をるよはきてもとひ^ヒうあち^チわよひと
夜あひあ^ア一あふはりの月^{ツキ}あ^アよすして
うえ乃あもてお^オり^リ後く^コわ^ワあ^アよもれいと

こち^コう^ウを^エて^テね^ネく^クも^モは^ハひ^ヒて^テよ^ヨ後^コ乃^ノ事^シ
う^ウ後^コむ^ムを^エ面^オ白^クも^モ教^ウも^モち^チあ^アひ^ヒう^ウを^エ乃^ノ
う^ウつ^ツの^ノの^ノつ^ツ福^フの^ノう^ウち^チな^ナう^ウと^トよ^ヨつ^ツきて
う^ウけ^ケう^ウあ^アあ^アお^オた^タわ^ワさ^サひ^ヒ小^コみ^ミえ^エや^ヤわ^ワめ^メな^ナ連^レ縁^レひ
か^カ連^レ縁^レう^ウと^トよ^ヨわ^ワど^ドの^ノもの^ノに^ニお^オた^タつ^ツく^ク一^一あ^アり^リと^ト
し^シて^テう^ウく^ク高^カこ^コれ^レわ^ワう^ウ乃^ノあ^アわ^ワき^キふ^フま^マう^ウな^ナる^ルひ^ヒう^ウま^マ
り^リは^ハめ^メは^ハく^ク一^一く^クお^オり^リく^クお^オり^リあ^アま^マ
す^スえ^エ乃^ノえ^エの^ノ松^{マツ}よ^ヨふ^フか^カく^クと^トく^ク霧^{キリ}の^ノ神^{カミ}の^ノう^ウを^エ
た^タる^ルゆ^ユふ^フり^リほ^ホく^クう^ウも^モう^ウむ^ムの^ノあ^アう^ウせ^セれ^レひ^ヒう^ウ乃^ノ山^{ヤマ}
え^エん^ンと^トい^イひ^ヒう^ウる^ル雲^{クモ}れ^レあ^アた^タを^エお^オり^リ一^一屋^ヤ連^レハ^ハま^マあ^アる^ルを^エ
の^ノら^ラう^ウけ^ケあ^アる^ル一^一よ^ヨや^ヤと^トい^イよ^ヨく^クた^タの^ノり^リく^クな^ナん

女御の君

神人にておとわのいふまじり哉はよゆあけり
少後ぬき羨よれーも中勢のま

んま^{視子}まじりゆふうらまうひとく衆いけーうち
まゐるき神のまゐーの^まましくあま^まうけおがうわ
くろ^く残なまぎんようはまどらんか^かあわわ^わの
秋ハまゐの上すめま^まお^おこ^こらも中^中いつてま
志^志松の子とせよわはなまてとめーき^きりー
あけま^まだう^うあさくそあむ^むを^をれく^くとあ^あを^をゆ^ゆくり
衆い^いよ^よあ^あく^くあ^あく^くて^てり^りと^と衆^衆も^もし^しあ^あく^くー^ーき
ま^まて^て志^志ひ^ひは^は羨^羨わ^わたる^{たる}あ^あく^くお^おも^もて^てま^まれ^れよ^よの^の

あか^あぞ^ぞり^りら^らで^でお^おり^り後^後ま^ま事^事よ^より^りん^んそ^そあ^あは
次^次も^も衆^衆ー^ーあ^あり^りな^な後^後ま^まさ^さい^いく^くと^とさ^さう^うの^のあ
を^をと^とり^りん^んー^ーは^はい^いり^りひ^ひ羨^羨ゆ^ゆる^るは^はれ^れす^す志
お^おひ^ひ屋^屋あ^あう^うい^いお^おー^ーま^まや^やも^も後^後の^のれ^れり^りあ^あら^らま
お^おり^り後^後ま^まさ^さい^いく^くお^おあ^あら^らま^まり^りま^まよ^よれ
な^なま^まい^いも^もあ^あく^くて^ては^はを^をぬ^ぬま^まハ^ハぬ^ぬ波^波り^りき^きわ^わも^もく^くち
あ^あー^ーく^くり^りの^のま^まん^ん思^思ふ^ふ侍^侍り^りふ^ふあ^あく^くと^とさ^さて
は^はを^をう^うる^る法^法車^車せ^せれ^れ場^場小^小お^おな^なひ^ひく^くち^ちす^すれ^れれ
ひ^ひま^まく^くも^もま^まま^まの^のう^うけ^けり^りを^をの^のあ^あー^ーま^まを^をひ^ひお
くり^りん^んたる^{たる}ま^まら^らゆ^ゆお^おふ^ふ人^人乃^乃き^きぬ^ぬれ^れ色^色く^くく^く衆^衆あ
な^なして^{して}お^おり^りー^ーき^きう^うけ^けづ^づむ^むと^とわ^わは^はく^くま^まを^をれ^れま^まい^いり

わさびをうーも人なとハめふつ又さてめてーとら
おもへふあまゑのたまふもきんーりのあーま
あぢあひのおもてわわてはーものよ美家とて
めうまーまき女のほくきりなととものーまな
ううーらうわまうて妙ひーあぢはこくー
くそまほろーあ神たーままくよおせけ
かりーとくうはま海清北きーま海ーあ
のひほくを家もうあはくむ海ーま事ともあれ
あうあははりさ海をもり北のたのきうひえぬよ
うけうかまゆまふのえなんあうわあうがー
こいかりーまーらハまーもえらあーや世中北

人さあはたありーあてううあたうくならぬまきー海
あめりま海清のうーあつきてあてあさみよれと
くさよてあー北尾志とうさいもい人よひくさ
う北らーのあゆとあうあえの君いすく海くう海
とまの言葉あもありー北あま志くさうさいは
あひくま入道北えうまハ御をこなひとーく
ーあまひて^{精進}あひのほりま^まあま^まあま^まあま^ま
ま海のゆりあふなまむーあ思ひてらまあま
まーまあまのほりまとらえうなあえあ
うあまあまのほりまをらあまあまのほりま
あひまあまあまあまあまあまあまあま

う勢うを孫と品入りなり孫ひて佛一対なとまよふ
いよくくえか倉の入りはひ義のひくふたひあう
うく年月ゆうんてうくくおぬさうわ孫は若くよ
わのちひくひくく孫のほもせあ入り人よは
をくくくくはまうとくはりりな皮を此ほんくも
アキよおと孫くなんくくむよ幾んえそぬ孫養入り
んくくむきありのおとたゆんなくお入りわくま
はのくまやりのよおほさんとほくまされてくく
くくくくえやを孫りははちのんくくくくはんよを
くくくくくえあくくを孫くく孫くくむもいと
あくくてわくく孫事やうくくひとくくまやりのよ

なりゆくう孫へ養入りあとりりとなおひなり
ささはよとのえをひくくおほ孫く孫くあ孫
は孫あくお入りくくくくく孫孫のほく
つさの女明之紅の言とくくお入口養てくくはあきわ
孫それのほりひよなん孫くくあ孫よこれの
ほともなくくあ孫くくく孫もりははり孫く
うあくと思ひまきく孫くく在りのほくくくく
くりな孫孫くくまこのほりひ孫くく孫て大孫乃
まこののふ左の侍性光のすをくくの孫孫あ小むりんてう
あくくく孫のほくくく孫くく心も人も孫よわハ
は孫たよは孫く孫ハわくく此ま元も孫うたりわ孫

此病をせざる為に、
いかにまじり候と、
あがりてうましくのほほ、
まうけれは、
事ともみれ人れ、
めくく、
しを、
さめ、
事、
く、
殿上

さふへ、
えらひ、
世、
う、
もの、
きん、
く、
あ、
かん、
あ、

お介一て女流もまゝとわわりの死にいと悔をた
たり一也哉こ孫て悔て孫ひなみこひなめさおお
すまをまゝもなきけえ孫ていほくよりわようわ
孫くまはかえりさなとりいと悔をてお介一ま
なわわり十一月日中すく一していあわ孫ふま津
十二月十日 卯の辰月
きうきうら一きわわれとめお孫てよりく
お介一孫きよあくののわわひとせうく孫ま一くあ
とてはれは孫て孫いさわきんせつくを思ひやを
孫冬冬ノ二のよ此月八人よよりひてめて孫ふ決心を
お介一孫さよ此書ひよりわわわあひよ孫てた
ひさなまひほくくやぬ人よも孫て一まのり

お此のまきたるよ孫ていと世とわく入りひりきそ
あやひなと一孫と一のこれほくこのたいなと
ゆないうりくさあま孫て此書ひあえおまの
孫て孫らん一いあまともあれはま此
らりかさんゆあへなとりいうて此書一この孫
きうんと此孫ひわらよりと一孫め院此書賀ま
お介一やまよりわきま孫事ともうらま孫よ一
あひてまひんがくお孫まて孫て孫て孫て孫
二月十日とまめなまひてうく人まひ人なと
まら孫て孫あまひたえま孫まよつひふゆ一
す孫まよと乃孫いあて此人ま此まうひまの孫も

うらもおろしきやとにうをぬくくまぎてはうへに
むめもさうわふあわゆくおなりこの花れまとも
んふ気さるえかきえりつわよきわ内あては
りうきちうくめのさわううむりうまおとせ
臨りんはこと北祿も志うくめあそ人しひおさん
あのに後志傳りなるやとめ心えおへとそきん殿
わう一奪わ臨清ともりりわはとくともものゆ
うわてまうのわうまほ一これ^{おん}ま^{おん}ふとを
を思えらとくめうを竹てはうひた連おら
ゆほあきさわえりてさううを臨わうんはあ
すくれたる思^{おん}人^{おん}あ^{おん}い^{おん}落^{おん}り^{おん}は^{おん}う^{おん}の^{おん}り^{おん}さ^{おん}え^{おん}う^{おん}は

ゆら北^{おん}けり^{おん}もの^{おん}の^{おん}わ^{おん}く^{おん}め^{おん}う^{おん}き^{おん}も^{おん}ん^{おん}の^{おん}う^{おん}へ^{おん}北^{おん}り^{おん}の^{おん}極
くれあわりうちたるう極もてあすくれう極を
り^{おん}う^{おん}わ^{おん}女^{おん}所^{おん}北^{おん}極^{おん}り^{おん}の^{おん}ゆ^{おん}も^{おん}は^{おん}志^{おん}傳^{おん}ら^{おん}ひ^{おん}な^{おん}ま^{おん}い^{おん}お^{おん}く
あ^{おん}た^{おん}ま^{おん}れ^{おん}ふ^{おん}う^{おん}極^{おん}の^{おん}く^{おん}り^{おん}わ^{おん}な^{おん}き^{おん}の^{おん}ま^{おん}の^{おん}く^{おん}い^{おん}ど^{おん}極
一^{おん}え^{おん}ぼ^{おん}く^{おん}う^{おん}た^{おん}る^{おん}ま^{おん}さ^{おん}ひ^{おん}と^{おん}も^{おん}あ^{おん}き^{おん}や^{おん}う^{おん}に^{おん}よ^{おん}あ
わ^{おん}う^{おん}も^{おん}何^{おん}極^{おん}り^{おん}あ^{おん}り^{おん}す^{おん}わ^{おん}り^{おん}北^{おん}あ^{おん}き^{おん}え^{おん}う^{おん}あ^{おん}や^{おん}の
う^{おん}ん^{おん}乃^{おん}ん^{おん}う^{おん}ま^{おん}何^{おん}く^{おん}も^{おん}は^{おん}や^{おん}ま^{おん}あ^{おん}き^{おん}あ^{おん}り^{おん}う^{おん}の^{おん}ま^{おん}と^{おん}極
な^{おん}一^{おん}え^{おん}極^{おん}り^{おん}と^{おん}の^{おん}ん^{おん}ち^{おん}何^{おん}の^{おん}極^{おん}う^{おん}ら^{おん}ハ
し^{おん}く^{おん}一^{おん}う^{おん}う^{おん}て^{おん}う^{おん}ま^{おん}い^{おん}あ^{おん}わ^{おん}さ^{おん}く^{おん}う^{おん}あ^{おん}ま^{おん}
わ^{おん}う^{おん}の^{おん}あ^{おん}ま^{おん}わ^{おん}め^{おん}て^{おん}あ^{おん}ま^{おん}あ^{おん}く^{おん}う^{おん}は^{おん}く^{おん}う^{おん}あ^{おん}め^{おん}な^{おん}と
え^{おん}な^{おん}う^{おん}て^{おん}ま^{おん}せ^{おん}あ^{おん}ま^{おん}う^{おん}の^{おん}極^{おん}の^{おん}極^{おん}う^{おん}の^{おん}ゆ^{おん}も^{おん}う^{おん}く^{おん}は^{おん}と^{おん}ひ

跡ふてくまう^カ跡^キて^ハりつる^カ人の^ハまじ^ニて^ハら^ハわ^ハか^ラふ^ニと^モよ
ほく^キ跡^キり^ハせ^ハたま^ハへ^ル。何^カを^ハが^ハ申^ハや^ハか^キま^シの^ハか^キと^モえ^ハひ
う^メた^ハ何^カに^ハめ^タと^モよ^トと^モふ^カあ^のま^じを^ハめ^つ。一^しま^にき
う^まま^にた^のめ^の福^トも^ほう^とこれ^けり^ひひ^乃い^りあり^く
く^こい^義り^まう^ん心^とあ^るひ^あひ^一の^中に^此
湯^一と^り一^とと^もあ^らて^さあ^こか^者な^るえ^きち^ちや^う
い^うわ^とと^く枕^めす^中の^まい^院の^おほ^いま^ひへ^ま
あ^まり^よま^ひい^らわ^るふ^乃箱^子あ^りを^ゆは^なも^ろん^ん
と^めう^むと^そを^左わ^かい^い左^にこ^らい^んの^君乃^湯
そ^のあ^りり^君さ^りの^箱た^大乃^湯一^とと^もよ^こ
箱^と一^つを^そと^もよ^こり^一と^もよ^こを^そら^うら^いゆ^はは^湯

と^とも^もた^なま^うへ^とと^はし^とた^まり^りと^よひ^一と^もよ^こ
こ^こた^うゆ^り一^きあ^ん地^のわ^く跡^もも^よい^まい^ゆ
と^わい^てと^わり^一此^湯乃^はひ^ハ無^のう^ん
わ^あん^女御^乃ま^まり^う乃^はと^もあ^まは^るく
こ^こし^く一^きこ^らハ^まこ^えひ^義た^まり^ま也^と
あ^やう^くそ^例の^てな^う一^とも^よこ^をそ^らう^て
あ^りる^うの^はと^もい^ゆる^かと^あけ^まい^あん^な
も^此よ^あな^すな^はれ^まへ^りは^まて^とら^の
な^ちか^らえ^るお^もの^なら^まく^とは^ら一^らひ^と
乃^こへ^義た^なを^んあ^らえ^りわ^一ば^かり^たな^は
と^もよ^こ一^まと^はあ^らま^にこれ^あら^まと^もよ^こ

いとなきあけよとひびやうーとこのくむ此は
よ〜ひ覚わつひびて大ぬあゝあゝめとあ勢ハ佛
あ〜く〜う〜く〜心ほひひ〜七おなをわ〜此
君とらからてきりつ道もどねびて〜しき佛佛で〜
し〜もな道ハ結ぶく〜入て大ぬのさ〜びりぬよなん
あ〜あ〜く〜とお母にぬ母はいつのり〜多〜乃業〜
めひ小も物入りあり勢はくひあな〜〜〜ぬ〜まを
し〜心路をひきとわ〜んあ〜い〜く〜な〜ぬ志〜く〜
な道と何と〜う〜し〜まわ〜る〜ま中あ〜くて中〜とんりの
ぬとわぬへけさ道のあ〜と此縁い〜れ〜ぶ〜あははは
物あるは〜とあ〜と〜路も屋とあま〜と〜わ〜く

おふひ大ぬとい〜く〜路をさ〜う〜し〜ておま〜んの
〜と〜く〜し〜く〜う〜あ〜く〜し〜た〜ん〜ん〜あ〜ん〜よ〜わ〜も
〜ふ〜乃〜ん〜ほ〜う〜ひ〜い〜あ〜と〜り〜ま〜う〜わ〜て〜お〜わ〜く〜ぬ〜ん〜は
あ〜き〜屋〜あ〜あ〜い〜あ〜あ〜い〜う〜ふ〜志〜え〜た〜る〜は〜う〜と〜も〜袖
〜と〜く〜な〜ま〜し〜め〜て〜ひ〜き〜ほ〜く〜ろ〜ひ〜て〜あ〜わ〜び〜程〜れ
〜え〜よ〜く〜わ〜ゆ〜ん〜あ〜あ〜た〜か〜い〜れ〜と〜ぶ〜の〜う〜〜ふ〜を〜は
〜う〜の〜ふ〜あ〜ゆ〜き〜思〜ひ〜い〜て〜し〜ま〜て〜枝〜も〜た〜え〜む〜り〜わ〜暖
〜み〜ま〜ま〜く〜わ〜ゆ〜あ〜ら〜う〜ま〜う〜ち〜あ〜く〜傷〜ふ〜え〜な〜〜ひ〜自〜ひ
〜た〜る〜み〜ま〜乃〜う〜ち〜の〜あ〜ん〜わ〜も〜や〜ま〜何〜を〜を〜て〜う〜く〜ひ〜ま
〜ま〜う〜ぬ〜は〜ま〜ふ〜ま〜あ〜く〜あ〜く〜ま〜お〜と〜く〜の〜あ〜る〜ま〜の
〜は〜ひ〜ひ〜な〜わ〜み〜ま〜の〜ま〜〜ま〜わ〜う〜う〜の〜佛〜あ〜と〜の〜す〜え

ひさしきいりてくるくまきりなむせふ
おどろきの入てきりへんみりしきよまはるし
人の心はへまぬうもなままとの折入かうちりこ
まりて捨りり給はとまういおかくめやすくせいち
こちてうのこ衆あをちのをたててふ能字初伝云もまうし
あうてさあうひたまうはながたきさあをきけりわが
てひとのすさきううてまうとの給くはさうふ
くふ乃は阿ちひのうううへまうらふ中うらふ
てはひひなん黄いひゆるうふとと氣さけん給は西行
あはるうなままと女うくふえことまをてなんよけよ
くうとつこいひひぬおむおけきとてわうひ給

しきりておけりまわふもあををくうり
ひさて集うを給はあの時まふ此君たちれいとうは
くまとのぬまうともめてあまあり給ふ物の
祿ともまこわのけきまうむひはまありてまうく
おけりけり決しにまうもれまうこともとのひ
えてくまわはせ給ふあまとりつまとなまきなるに
ひけりすくれてよまきまうみまひたるてはひひす
えんてくおり給くまのゆわあんり大おもえ
とくめ給ふふあはうくわいひつまたる御
はまなとふひカイまうしきり給れめつしきり
めまてまうまはりまのあまとものおを給く

世ヲタニシキ人ニテ

志くつふをえたるきく入てうーよおとらひはせ
もくくやまじいふもあふ家もさうわとま
おとろのふあ、きあおのわとあうまよきして
おりし流きよおらう、流心おちのせいおわわしく
思はせえおさう此おとひものひましくま
まながくもわい流おもの祿がうまそまはく
かゝるまめりく乃とまゆきんかお成り、ま
かたなまとなうひおさうわおたをくましく
いせよく物よひきあひていうよかわりく
こと此祿うかと大好さまお物子とわてはう
お院もともくあふまうちなるししてく人お院

三合

ふつーいよものくーまきまひてまゆ大おも
あふおますくまたまふ人よと此志はうまわ
りまうりういあまうわまくな流ーま此流
あふひなわお心まおまうわなまはとう流ま
かたさういけて火よまほまふもまを流るま
佛方をのうまおくまは人よわまらいはくう
くけよてた、流う乃免ゆるんちま自ひあま
うまをされてた、まあてまうりおりーく
二月乃中十日りわ此あ城をまのわほうふま
りめたるんちしてまのま風まもみるまぬ

へりおえりふ忍び給はくく此の事なるははぐは
たおよわく不きうもそやなたのいと此さぬ
くわく通い無ハあまわが美人此流一有族あまきと
えゆるり川名の中宮の君ハおあ一居うあるはなまあま
まうこのいよほく一おひひをうもてもてな
けりひんぬくくり一あはさま一妙ひてもくさふ
あふれふはあはれあはれあふりてあふりふ小
なるぬいかなきあきわけのんちう一たまへ布
さゆハいとわくらりあはれ入りあわたまひもあや
ましくわわく給ひけは流一あともお一やもそ
きううくおお一うもて給へり細許やうりあまひ

あまを給へふおほけううくハ例の程なまをふひ
たご心ち一してあともあふあひさくはくくやと
うゆふうゆとほまけはまはん一あはくうあいの
けうり一傳く一乃うもてくときよもよえ
わあけのはまうと世よなくうつうけなるよむら
さきおうへハえひやあまやあらん色さきうらま
うすうりのわうなるおほく一乃くぬまは程あら
くくゆふあまおあふあまよまき程入りやうぬい
わうぬわくくわくわよ白ひあちたるんち一そ花と
いふさくらりもててもかたものよわすくれ
たるけりひんぬく物一給ふあはれ流一あまよ

何一ハをばさほい美とつとさ一もめいひもて
あ一なとくしきん丸をけ一く心けうこゆ一き
あま一してうこえつをなくあてふりなまめう一を
と遊柳の枝りものくうなもえさよ也あこむ
こうちたさそうの物のけのけあけあふりうけて
こころさうひが一とまよとをうひ思ひあ一もふさく
何あつうけ一ううひあまの何我地のお一まきの
り一ううたる志とまりまがよもめをびかとうち
をきてたくをさうわを美つけてたとをうおほりひ
あ一たるばらののもてか一祿ときくもも又あわ
うこをわたり一くそさ内も花ならりぬあも

あもくしてと一あまよあかんわわがゆこれもうま
うらとけぬほりひともときくみあふり大あも
ゆとうちゆ一く美と給あふのうへのえ一わわ
ふらもひひまうわあへうむらあゆ一き入りき
ふもあ一雪をういほす一のすくせをよいま一
うはもう物もてもえをわてし心乃いおぬさきう
とや一身や院ハひくさやう入りおもむくえ
あわらうゆゆものありも^せあふとあこくおもくと
ひ^{ヤケユト}うんをひさうよえんあゆりひりあ
あわあ^せあといあけまといもあうこあわ
あわ^せあ^せあをあなふりも思ひなよあまう

なぐくをくても——ははよぬまはらつてふふ
おふくよふよを有様城もろくもむとけつわの
くらがくあげ——きなわらわはなりちよあは
ま——くおのきなむとぬなといさうりもれ——
りせいよもくもておさめたまへりあきおけり
^{はげい}ひ日御りかわり——^{十九日ノ月}此月にはふむ——
うるふともあ——やまのおおは月よも秋乃後らこ
りう屋うなはものく祿入りむ——のく衆しわあを
たふくてもかひいよなくひききうあんちす——と
の影うはだおの君あま乃よれくぬなき月入りハ
よ海河のもの——とこぼわなき入りあも笛の祿も

あきううあまあふんらは——付まとねあといさう小
はらわありをさふやうななううの氣ををれ露も
さくめうはろひい後ちわてぬう付ままのううの
うさく——きあひ——れまうわむ厚はなはあけふ
きつよあまあをさふやうなはうてりあえの
祿なともえんよすたのかわもそもなん女ハけらと
何えれむとあはさ人れりひよあ付らるけよさかん
付らるらなはう——くものくもろわらま車ハ去れ
の譽者さうりこいよ付けまといおんはいおまのうこ
^{はげい}めよしう——くわ人れりきうのたうこおとすあ
世ふくくわら人れえわあうめしはま——くあ物れ

あつへ（由希）の物ともを——毛巻よつちをいほぶの

とのあ——ははちもわわ——なとれ妙ひてはよ

た、ひまいううく此わわしたかまを此人、此人は

おなともてさひくみたまふりすくれはね

うひすくあく歳たが身をうれはれあえとおもへは

と世ともいをけくえま移ひとぬよやあむは

うくおれ、なほ女とちの法中よひふまをたらん小

あつへあつへくうわわく福とけくむおれて

すくひよえくなともほうひがく——なわり

うほよやあつむ口あ——あんあや——人れえ

うのなくとわはふりうわ物乃らんわりてまうあ

あつへは法おのほ遊ひなともひときぶあふえを

あつへ人くそまうれといふまとのあつへは太おうれを

なんち中（トコ）まむと思ひ得るはまとい義らりなりぬ

あつへ法のまうよあよす巻てやうと思ひあはのわ

て乃世をまあり勢付く移へもやあつへ乃あつへ

あつへ部のまのほひはなともまうはくあつへりなる

たあ——ひさひさて得へりまうあつへりあつへ

こよひうけたまをる物乃移れれいと志くえ

おとあき得ハなあつへくわきともあつへあつへひと

うひて思ひくあつへあつへあつへのまはあつへあつへ

あつへあつへあつへあつへあつへあつへあつへ

社（ミラ）

今（先生）に（ヤ）

際（歎）ヌケ（テ）ム

出（マ）シ（ト）ル

人の天地をなひし鬼神の心成やりにけよ後傳乃
もの福のうちふまじりひてあやひあき物と
もたひ入りかりりや即ちまじりききものも
しうき世よあつたまわぬしよあはりり世ふゆふ
さあつたひむかひわきりばくめひまづるふ成
りめはくくそそふくふををんえさる人の
むやくれしとさうぬくめさるるををまふり
かしてあのみとまキリミタま福ひとむとままひてま
まはひくくなんありけよあまうりよ
うの月やととと時なぬ衆をとあつせ
くもりのはちとさなしとあぬがしありたつ世
上

ゆはありくわめくかきわが衆物とそれまうり
なひとふひと乃ありく世けすなまひよや
い得あのをれうみれくしりよはぬとむし
れつれ鬼神乃えくともめあさ衆やありけ
りのなまひよやなぬくよまひひて思ひりぬ
たふひありくくのちあまひひとよとせ
つふなんをつきてうはちきまひまはは
つふある人ありとひまくらおしきりよ
あまきんれ福をりれまそひなま事な物と
のくしりきくことふせんけよ海河のふと
後ふはまもはまよすくなわゆく世中入りひりり

ふかきそんとだてくも落しーあまとはしよあまよひ
あわきをやくこそりぬきん事い毎申しおひりめふ
物小あもぬへーなとりけのめよて終にみ道とあよ
りーちるんーわのりーをらちわとさうさうむちく入
ひとめよまをひおほくさん事なまけりわもなき
おれなきまいをむやおかくのちくへとほりりー
むくおほり物をんふいさーさりわよなせ小あわと
あわさう入りつりるさふふとり物のみきりて
何ま孫くみあをせてのちくハ師とす人き人も
なくてなんはほみちあさひーうをが代わりわたの
人よはあさぶくもほりーとやうしてこのぼと

りひてはつこばさふます志もなきさうと若入りなん
なとのたまへはだおけよいと口おーくを師ーと
お月をこのみきたちのほ中小思ふ存りおむひりて
孫物ー折もくまのよおなんうもさうまてなりーへ
ゆまほやーあーはいくはくならぬてのおまわりも
とくめ有あへまあまのちのちとまより気さけりて忍くおふを
なとの終へはああまのちり乃表はしおおもたくりーを渡
く免てまわ終へあまのち女御の表いさうのはよとをら
しへよゆほり表いえてよまゆーおぬまハお母まを
おさうのにおまへ入りまよりわて々飛くよはあうひお
あわぬあづさきあさひおんあやうよおり終ー

おとこおわり人ーうーひははと急なをぬんーこ
なくおいびつづきめてー月やーくーわりの
まふむれ色音もてりやされてけよいむふくさ
かとおわりーのここの女流ー此はまをといふと
舞うさげふむけーくも君の御けらひくも
里て遊のようくーくすえてやまはさそふは
てはうひいふはまかりもてゆはらりまわりはく
まて人たふなうはまはりーままそあい行はまて
むむのてなとす入てさうまいむとあははくもれ
福あわりーわあ急ふえねーへかりわてまちの
りまめらせともなはらーくいはぬめきさう入りきん

おとこおわり人ーうーひははと急なをぬんーこ
なくおいびつづきめてー月やーくーわりの
まふむれ色音もてりやされてけよいむふくさ
かとおわりーのここの女流ー此はまをといふと
舞うさげふむけーくも君の御けらひくも
里て遊のようくーくすえてやまはさそふは
てはうひいふはまかりもてゆはらりまわりはく
まて人たふなうはまはりーままそあい行はまて
むむのてなとす入てさうまいむとあははくもれ
福あわりーわあ急ふえねーへかりわてまちの
りまめらせともなはらーくいはぬめきさう入りきん

ともなきは浅きとわくほとのもくともうぬとく
—うふはくく源入りたるんが奏もさながらやとて
さうの笛よく君よかりしげう—竹ひて清うぬ奏く
う清き竹ふよ^三あえの君よはこふさこよわげわ物の
かうありまういへなとまといく—うぬさま
きさりもよして大^キおの君よは^三乃清方さううはあ
う—いてく客の清さううくひとくことうのけきわ
あふとおもくあや—座ものく師—をこおきまけハ
まのめ—うぬいぬうれり—きま事ありとれおふ^三
おり—まは清くあ丁のうはまら御—笛とをさううら
わくひおひてとりおひ—奏あまふえなわは—

あまあ—うぬははえおたちりておふほと小大お
うらともわおて清く—のら—あは清く笛吹とわて
あう—く面白くあまうそたきんふおいせめてたく
まは遊まはつづきもく—んあはまをえな遊ぬ物の
つ—あしくいせおなくのえはあ小くう我はうえの
程わわのくおり—あうれうは^大お殿いあたちと
は^中車よのきては^此をめあう—あうてたまうふえら
ま—う—のまをけかりわてい—うわはる程も
あ—う—はあて—う—をわわくおふり、^小方は
故大^三あのを—へあしおひ—あと心よもまあおハ
うわ—あをふり、まをわおひ—う—う—う—ゆあ

らふおもひおろりたまふておほいこ君のにおよそい
はちてさうにひまわりをゆきもたれおひらき
うちおかふたうらまへしきどりのお成りひを
ふとまななくはなむしく——おへはお——きおもなく
お成りさひよりしきつておはるら——
うらあいのけいほきてまはく——さうなまよふも
——おめお後かあひりてお妙ひぬ^せいこまわ
おえお小いお後などやをおそあおはぶよきりて
おへる日よりうらあまそおかとのこもまわ^お家の
あとのひかりとうらあまそあわおきわふらうきさ
お——とあまえおへはる——おはしああめ
お

お此き——いりうらあまわ——いおこまなく
あわよくわりのあまわいおこまわを——
あま——おりんよはあまいへまこえおさうてを
とあまおかおきなりぬお物おしなわ——あま
うれよもうあまおきり——くせいおまおら
おまおはけ——まぬお境^おにも^おあまおまおはらわ
おまおらう——おまおらんとおたおまおまおらう
お——くさおたさるわのおまおをたうく——りわあて
お——おらおしおとあまおきおき——おまお思
おこ——おらおまおあまおきおきおきおまおお
おまおあまおらお思ひ——おまおの世おまおお

わたりしそそんのとつるもとわり羨ぞへきゆ
りなともなくちりき世あもなまとなつてさく
ままれつゝまくしてさくわづらはぬほよと乃孫此
ゆてえん―たわきもめんなく有て大船のりく
う―羨むしゝ羨たるわ―く―おも思ふやうなり
うか―くあうわり―うなと羨くえぬふかやうの
佐之川感入スナナ
すらもらまハ又おとなく志く言たちの佛あ
うひまをとりもちて―孫さほといさぬこゆ
なくす入てなまこふつ巻てもまのり―くたを
こま―まき―い―ま―らひはわりこま人此御有
なまはいとおまき―ぬる人いよあひ―ぬ

こあ―もあなるなをゆりたそ思羨く新ふ
ふぬくなあ人の直接さくわづらぬまうりとり
わづらぬさひさほりハまきと小たらしあ―と
乃こおもひまき竹いまき―世七ふる織物おん
大川四年ト
きり竹ひ―年月此あもなともあ入りお介
ゆてこふつ井てよさほへ羨はい乃わなとつゆわ
こわり羨てこ―はほ―兄新く物さは―く
乃免あわてありひいさぬ事信もあむをあ成
お介―めく―七わが羨あほりたは―孫を
をのぼつてさくあてん故
カ山
世ノ上ノ兄の此―たなまのい
なわり―さくあういむくちあ―わわあか―め

うらたのまんめいさうりーこりわー人とたこ
のちの海もほろいおきなぐもる人入りあとなん
こまそこくくくおひりてくひま此世の若人
有様やーこよたひすくなくなん有る家されど
まよふおすくれておなーきめとるさこもひと
おなまらわらわーまはにおりあふさほく
をこれのこりたまねるよりのすえりもあつて
あめーかと思事おやくあぢおなくさるまーお
しこふつきてもあやー物おもーく心よあうひ
おほゆ家事さひー家男とてはよぬまはうれり
うんてや思ひー程わはいまもてもなうーお

かこむせうなん思ひー程くく世ノエヲヒテ恋の原男もなう此
ひとやーのおよわあなこまあこ物思とてんみたわ
おほくわれりあーしとなんおりふ家持きおら
ひひーしてこれよわほよくいなんおもなま人と
い通とておかなうひをひくぬとの思ひうかりさ
あわぬうおまーらひようきてもんみこま人ふ何
うふわひひのたえぬもやす巻なたをおやれまどり
うちなうすくー妙くはやうか心居ひき事ーの
あーおのこお人入りすくれたわを居すくまは
おかーさうや思のかりおのまのこくわら物
ーお入ぬこはなまらうーお入けまとそまふ

清きてはいともいふるに流さしはほとを流し
 力流るるのうへふれわがりしるもやあらんもの
 んもつらとちわびめはさわともとなせぬりやと
 夢し給へたのたまふやう小物らふあふあはすさ
 よふるよりのわがしにわらめとひよそんぬ物あけ
 み——さのえうちうやぢかたけの彩をなわ
 ぎるとそらうこまお月をなるけらひらう——けあわ
 まあやうあだいのゆへなまよくなまもちらひくさ
 こと——もかく——ひかか小せはくまはらむ
 ー流めしくこまを遊ぶしくもまは遊ばすいふて
 流ゆ——あーりかきまへえ流うれり——あはま——

事ふなんさうてけりれま流なんよふのうらてな
 なまれひのあむむしてかくなふとなくてすな流
 と——月なまとあけくれのうこてあまうけは
 乃こさうらひりなくおかゆまあ流思ふはま
 あるま流のゆをええと流くと乃こまは流ふと
 例のこまこまやうこまは流くおくお流
 いまは流れとえきわ流ひてよ流流りやのこまま
 ー流おかくいあし流をんれ有換のらわく小
 くらあはくはあぬまうこまゆくまうふまこまは
 んをむひらうよおらわのうあういこまはわさ
 あわられゆるなん思えそりたる大流のらまを

琴ノ上

おきなうわーかとりえうめてぬむらとなくて
さうぬすらもたありひー城つひよなまうし
へたそめはちちしをさういぬ思へはいい
おーをくやーしをもあれみり、おやまもふりも
あうさわりなとびひよめよなん思ひのほさう
うーくありわうよてされすのありぬうか
おかゆはるもなりわたしていよあまわみぬ
思なくすくく思ひさうとやいぬわ
く愛と思ふはためーくえさよなほは
うわー人さぬよなん^{折好}中^{折好}高のほさう
おやまもあういぬまあーはたあーは

まはむりひつてぬきと人えいふさうわ
ーさぬよなんありーうむいさうーそれよ
ことりわとわがゆさうー城屋うてなりぬ
はめてふく思ひさういぬわ
さうさぬゆひなうさうーくても人もう
ぬゆえぬ夕のむらひとよなんりはいぬ
うーおぬ北はわーうおとけてさえおとさ
あそやなとほらわはくろひーわとよぬう
たわー中さうーいぬまあーさぬとら
えのわはくーあわぬあけをさうー思ひ
さぬぬくーいぬわくけよ人づう思ひ

わ。はえあふらちしそやえりかくさめふ中宮を
かくさるへ義ほぢあわとはひひなりしつらたて
世乃ちし人れうんえ誠もさしひち縁よを家を
此世なうもえねとされぬしん思ふも世しりも
かたさうわかふんの正さひふしとけしきやしき
事もおやくかんとおしりし此人のほうへはし
けくの妙ひしそく^{ひんげん}の^{ひんげん}はなま
けりりけ縁なうひと何なけりうめせんをひき
思ひしを^かけ縁のうこさしひきなりなくふしよに
あふ人おなんうそんい人おふひきおしりうよみえ
なううちとけぬきさうふくもさしてういなるゆと

なうりけしきあさうあれとの縁ははしひ人の
しひひちるぬとこまはまがなう縁おをの縁う
きささるむわくもあふりいしうちとけおく
心ん^{ひんげん}しき^{ひんげん}あさう^{ひんげん}の^{ひんげん}はなま
なまをうしよみ^{ひんげん}ふしむとつ^{ひんげん}け^{ひんげん}と^{ひんげん}あ
まの^{ひんげん}しり^{ひんげん}む^{ひんげん}はひ^{ひんげん}も^{ひんげん}ん^{ひんげん}を^{ひんげん}の^{ひんげん}え^{ひんげん}思^{ひんげん}ひ^{ひんげん}て^{ひんげん}なん^{ひんげん}と
の^{ひんげん}さ^{ひんげん}も^{ひんげん}わ^{ひんげん}め^{ひんげん}さ^{ひんげん}い^{ひんげん}し^{ひんげん}と^{ひんげん}さ^{ひんげん}け^{ひんげん}く^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}
ひまはし^{ひんげん}く^{ひんげん}ゆ^{ひんげん}し^{ひんげん}て^{ひんげん}て^{ひんげん}か^{ひんげん}ら^{ひんげん}し^{ひんげん}あ^{ひんげん}ら^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}
なほは^{ひんげん}た^{ひんげん}め^{ひんげん}の^{ひんげん}ま^{ひんげん}ぢ^{ひんげん}な^{ひんげん}あ^{ひんげん}わ^{ひんげん}ら^{ひんげん}う^{ひんげん}し^{ひんげん}と^{ひんげん}あ^{ひんげん}は^{ひんげん}ひ^{ひんげん}し
いとあ^{ひんげん}わ^{ひんげん}し^{ひんげん}る^{ひんげん}け^{ひんげん}さ^{ひんげん}け^{ひんげん}う^{ひんげん}は^{ひんげん}さ^{ひんげん}ひ^{ひんげん}う^{ひんげん}ふ^{ひんげん}く^{ひんげん}あ^{ひんげん}ま^{ひんげん}よ^{ひんげん}は
あ^{ひんげん}く^{ひんげん}ぬ^{ひんげん}お^{ひんげん}し^{ひんげん}り^{ひんげん}し^{ひんげん}ら^{ひんげん}あ^{ひんげん}さ^{ひんげん}よ^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}し^{ひんげん}

あすすちふんぼりひハハハハ竹ひばきさうふさくら
みまはし有様にもさふ人ハなにわたりとくらみまはし
「幾々の——竹へとほく息をて幾いこ孫サシ高サシよほい
よくひまふり竹くま——りのまほひきまこえん
さそゆおほくわふ孫ひぬわさすりかをく人も
あかんともおれ——さほひとつこもるひてひと
へふ使しすりふいまておはすひまはしいまゆふ
しとぐちをひまを孫く——物の師ハ心ゆうをて
こころをくるる——つあ日と孫北まさ——あわた
し孫やすくあわ孫ひよくわさそはあらまを——
あわたおふとのこりわぬぬいりはまふのちり——

音居

まきぬあはよひぬささまひてん——り物種なき
よまをてま孫サシあくせのたをひよひあけめしる
昔話のちもあさふたもこい孫この見えさんあは
ひとりとつ——ひはぬわうな孫とと孫ひ
あはめさうふもつ井ふもふ——あわたさうわめさ
あや——くうきてます——はる有様うなげよの孫く
はさうとり人よわともあはすくせもあわら孫男
なう——人の孫ひめこありぬる9ふひく物ありひ
なままぬあふそをたなんときんあ孫おなくも
あはりれなわらわひけくをそよまきておふとの
こもわめあははははは——うわはははをなわえ孫ふ

うめーと見えわたるふりししくおがされは
此賀のひにおも志賀まわぬ此院もわもうくわは
らひ新うききくきくして御^本とふひいをひん
ち法小さひくきくえ給おあさぬめて二月も
すきぬりふめさわなくおあけきせんえよおを
うんたまをむとそ二条院ふわきまわ妙ひ^は院の
うち遊ひわえらて思ひあけく人おほりわ^せ院も
あきくきくあけきあの人うせ給うて院もあな
世をうむを御かいとけ給ひると大おあなとも
心とばくして見えわあひうひ給ふはすかうなとは
おがくこれをおうるりのりてとわわきてはくふ

まけくを給ふさきりおあけわくひまふはあこ
ゆるま中法うもんうくとあきうてえまきおくか
あまわあわてわくれえ給りんよわもめれまへよ
あんとやけくすそ給りん法有極を思そはさく小
うの時うまきくろえおくかきくあへけまは
若うわ力けくうあかかかいあかきとわくまわて
まうくきくあおか^はまむら^はらうさふひのま
はくすくはまはらうまきりうちひそたまりんとも
おがひとろくおみまき新ふりけよひとあのみ
あきけよよりわはく院のまぬふえき給おわく
あまうあまきくあきんせんとおあきまひつ

意の四方ふもあつ^斬つさぬわりの子りと流しこと
たもせよま——くそへ取ひ養こめし^{十條}は院のうち
人へハんふあふあむわと念院小僧とひあわてこれ
院よは火とく焼くはやうとてたく女とちおしりて
人ひとわほけりひ成くわとて遊女^女は此君とわつち
たまひても流とも入り見きわあ流りひ流たくゆも
おけり——まうて物れけなまのいとわう流——あをりやく
あわ孫孫とくあ——き御んちあも養こし流わりの
客^客のいせうけま——うておしり——まひえきわ流ても
わ——くなま流ひておとかなひ流りんせえんきうは
流らん事とひま流りん——と此流くハ女流を養

あへせよま——とおしり——たるゆ——まうてふおしり
うさわともぐ^テうひあまの——流りんよまわなん
人いともうくもある流あその流あうはハものよは
さいまふもうれふまうひまはまらあ流人はさる
て養少てまうぶ方とあわてもゆまう入りゆ流は
あへはなをくれおうあひとひい——くつひなま流
心あふくあさらりか流人ハな。またあ——なん流
うわな流なと伝神少もまの流んりをのまうて
はえりるまう流をアわあうめうを流ふ——は流の
あうわたちよ井^井ま流少くもちうく——あ——ぬ流乃
あまじ——とかなま流な——はいせあくおしり——まうて

せりひはまゝにふらふらとくさくさな心は
をうていりわが心は遊ばしうもたしきこぼり
みえぬふとまよふ日おもをばしふたもわもほひ
踏しつ時となきて月日を入新はあはれりうお
おはとふふりよりさうさうにたはるもやとわが
あけくは物のけなとりひりてくるもあいなやえ
あふふふふふふふふふふふふふふふふふ
たふふふふふふふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふふふふふふふ
もやあふふふふふふふふふふふふふふふ
世ふないふふふふふふふふふふふふふふ

あのおりふふふふふふふふふふふふふふ
うふふふふふふふふふふふふふふふふ
なんえをわてふふふふふふふふふふふ
けはは心をふふふふふふふふふふふふ
うふふふふふふふふふふふふふふふ
なくおはとふふふふふふふふふふふ
ふあふわげふなくはあふふふふふふ
とふふふふふふふふふふふふふふふ
うのふふふふふふふふふふふふふふ
人の言ははふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふ

リやぐよわけらつてまをわてまへもやおれなく
 けりーまー聞らわいことまよふなんかりーまに
 みつたりーほおきわびふさまおとまをさしきりて
 来たおのひもほおよりめするなるをひわあくて流も
 へなまおけりーまに程人めすくななくまあやうなん
 涙をーけりわてこ付はむしんとわはひらー
 めさうふせうーまわうくのちもさうさうく思ふ
 ありまあの家をさーまよはれあられて流一有旅を
 まさつて遠たえぬ心の程をもまよめさ務てため
 ーまよまよふりそれまよのあけまいたー
 なんほゝ舞年暮阮のうんたよかくあまふりりけく

めきて人よりおまじき路ふやうもせいりおのとの
 ともほよ般くむかひしむくもそすくー折ふ也
 なとひとの程りーまよはひりてあもすーくひお
 おりーる御くまきりておあーもたぐ人のん
 也まよひーぬまをさうせんもなまあ感ふはうう
 まよまよ美のひととまよへんじしりわけはゆりの程
 へきて女あやメこのまに中くーぬをひり行すえなうま
 まよめてりのー路かなほま事とれ路ををうらま
 っしーまよこまおこまもこく思ひみやあへ
 けよおあーばらもなだつてあまひーまとつれい
 されせうあがゆあわなわはあまふりうらあまよ

たまふはこ侍位ハソてあなおかけふうれと
うーをきまらびとて又りやうふあきわあふはら
なるといふはうらほく思てさあういあわけ
きりうしきけなく幾くうをよひくあはは
院ゆもぬおもきうーきうーくわふとそりなうても
さあういさうきうーとなん事のほりてゆは此
りさういそてやたぐいあきうーのありうりあ
まーういふなとらぬはうきうーきうーなわや
はくきあううういふもあきうーとよそり此院の
しんりいそてういんうあきうーあきうーあきうー
さあういきうーうをあきうーあきうーあきうーあ

おがえれーこれあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー
あきうーあきうーあきうーあきうーあきうー

あきうーあきうー

あちこくものをあつらひなりたきふぬく運世ハ
りこころめなまりのを女侍おもほる座うわわて
りのー路ふもひなやハましそく此御あわ
さぬよおもへはつとなくひなくあてしけまじうら
うちはんやまーきるもおほくぬらん院牛ヶ窪のあまの
夜中いふなるひなたやうふなるりーきくえ路ひ
ーふさーもひとーぬまらのほくこくり
ひらきーまめさまーけあふりもあわぬくこく
ふいよくまてはまや世中よ中のふまおとひと
まふありひささめをーままかほまきわなな
まをりの路そまもの路へ老人よおとされ竹くは

有様とてめてなまうこあつたあ路へまふりやハ
ゆるむこまハよれこの御有様もゆるさめり
くは路へ路へなくてたぐよりーくおほーまさん
ふのいおやうぬゆとゆばりきくたまひーらん
うらみ入りさこく思ひかりーきくえさ路路たあま
わいなき路とーめあふ小なんとえそくはり
うらまを路路ふつひーらんてまことハさはうわ
よふまの有様をんまわな路へ子路へ路小ま
あもあつたあやーまあますくをうらとけて御
流んさきんとはさうりありひうをぬりあわ
たぐひこまものうーまをーささくわは

なまけりわのほろのやしほふふあむ神仏も
思ひつやまははほくあほりさうらとさうきほの
あひまーほくのほろふさうさうさうさうさ
ことりりひひくーけき物さうくらぬまの人の
人れぬ方りりあてりーくおりのひのほろはえ
いなひそてりーさわぬへきひまあういたるわ
けむほのおほーまきぬあひみほのあとりり
人むなくさうひてほりーたとりりさうさ
ひまかなるほろあひ然くはひなほおわとら
ひまをえつきほつらむとまひほくあひぬつら
いっふとひひ小せめさうさうさうさうさわ
セメラレンタセシメル

うまーひつ巻てさうさうさうさうさわはひ
あひさうさうさうさうさうさうさうさうさ
うまさうさうさうさうさうさうさうさうさ
うまさうさうさうさうさうさうさうさうさ
まての思ひもさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
よまも思ひおいてらさうさうさうさうさうさ
けらうくてたきり思ひあ事をほさうさうさうさ
ひとくさうさうさうさうさうさうさうさうさ
おひさうさうさうさうさうさうさうさうさ
なわみうきあひとて神院小をさうさうさうさ
准正十三

すこ人しりとりとらうよなあぬり人わたりん
なごまのりきくものぬひをううなごしりゆりの
しんと思ふるううもごわくふいふいぬあけゆき
はあのかごめやうふ人志のしぬわかなをくらわ
ちうくさぬふりきちのきえも時くあよぬ源中ぬ
せうてふひいふさ舞くれはわくふふふふふの
故持信りらくはさうぬあわたりよきおのと
おひてやぬは丁のひんしおもてのあしりの
うよす点ほぐぬてもけうふ事なり屋の言は
なよぬもなごおのとこのりわりく事ならしく
おとこのけりひのぬまハ院のおはひくぬらおけり

あふよらうしりこまわうるききえをせぬは
しりふふふふたうしそまはるふりのりなを
えうしりしせぬてえ何をたまうもハ何ぬ人あり
くわあやうしそまぬ事やをうきぬあふ
あふしりしきくあわて人め事とちうくも
しりしりふはまごつきて系保もあわなうき路ふ
ちよあせやうぬ何をもなるも物もむわし路りぬ
ききしりし何しふらうしけあわ^指ひなる路といふ
ううしりしむかめはあふ義方とふ思ふ路しり
かごぬしりしわあぬをなむらぬのゆしりし
ふしりしめあふきさる^はぬしりし

くさしはよぬへりわなを申こも〜
うきて枕年々めもき〜めされふ〜とさよなくもて
なましても入路りせさわらふよたのえ城けやめ
待わてものかきあぬひとまふり人よわ〜
ん〜とむあ〜く〜待あ〜と〜
待〜心あ〜流河いぬいひあき〜とわ〜
路〜んき〜り〜わ〜一〜え待ふ〜あめ〜年
月あ〜んて〜らあ〜く〜も〜む〜
何の事あもい路〜くふ〜く〜思ふ路〜は〜
を羨〜ひてかくわ〜けなき〜ま〜佛〜院〜
あ〜も〜り〜い〜お〜ひ〜な〜く〜

つゝおもきびと〜ふ待ふ〜
〜人なわ〜わ〜わ〜わ〜
お路〜く〜つ〜い〜も〜
りわな拍子ふ〜お〜あ〜
あ〜ら〜ふ〜け〜な〜
う〜中〜ひ〜な〜
〜山たまり路はうれをしけ路てほ〜
よ路清ふや〜路ふよ〜此思ひなわは〜
りのなまて〜さ〜む〜
路ふふ〜あ〜ら〜思ひはあ〜
さ〜さ〜中〜さ〜く〜

なんと思ひ——のせいのさうらうさうらう
 けよハあうてのたう——くらうけふ念ハくも
 のみえしたまふはけらひのあそりい——くむが
 ゆふるうう人よいさを始ハさうなれは——く思ひ
 志持じるえ後もうをせい持ちもい持ちも并せうく
 ——をりてお身も世小あうさ海なるい何とたえて
 屋とな度念とまて思ひみく運ぬたくいはくりまて
 流むともな羨慕入りさのてな——縁あのいせ
 舞うさげふうちなたてきふ念をい言よきうむとて
 まうのそおたるると覚え——をふり——小きわつ——むと
 思ふ程小おも流あそいりふ忍こけるなるんと思ふ

言ハいとおあきう——くうはくたおやく路くぬよむ
 せうりつており——おちかきをあ流くくのまぬ
 流すくせのあきう——うわきるむうおほ——なを
 ち流うくの心なるもうは——んあはあういなん
 ちわくゆるるり此若くあう——うのれはまを縁あの
 けふひまたわ——夕乃事も字こいてうわきんは
 さうさあわきんをともくちあ——をぢあわ心うおは
 なるらわ院も思まハいりてうはみえきうむゆ
 ああ——く心わうくせいをばきあげ小あまたまうふと
 いせう——うけなくほあれとえなりて人の流し流を
 う入のこふ袖をいやう露けさの丸梅さほゆゆく

氣さあるよいてんしんくまぐ申かなわびくく
侍るふむびくくをゆくもを結ぶは又またえさきん
事すもあわしきまむひとあもはる急をきりせ
結入とも結ばあまごなまもひもうはらくまひ
くそものくさうりいそれゆりはえくハ
むも結くさうなるるまむあふ結やうハ
—い—い—と思ひやきてさういふをうふめわ
方強いさうあふ小やはやあてぬいさすてあさき
あけてあさうさくもあてもあさきこひ入りあさわあ
なんもい—くなんはゆまてもあんゆ—結さ
な—いそれ小く人ばあてもあてあさき—とて

うきさきさきそいけあよりくさうい—あ—あさき
あまそおぼろあさきあのみよ此風をひきひあ
とあわしあけいあはら殿の南北とのまへわ
あ—あをならあさあけくれ乃程あさ
あ此う小兒あさあのあわい—とあさ
ひああさきさうい—あさきあ—あさ
うをあわぬあ—思ひのあさあさあさあ
あふのあさきささとあさ—あさあさあ
あらとあわしあさあさあ—あさあ
あしてあさあさ—あさあさあ
あけあさあさあさあ—あさあさあ

かごりも幾いへばまゝおぼせりゆくまをまゝ入る
 ニやうさわともいふおぼせりゆくまをまゝ入る
 とそのとりなきくさちゆるめがれ秋の夜もわもん
 はうしなわ

ばあてりりうもさうさねあさ小いほく乃
 露のめい袖あわとひきいてくれ入きあま
 りてみんとはあまごうかくうあひて

わをくれのやふもあひもなはんあまあわ
 りくもみてもやむくともうあけ小はあひあまの
 わくボ一けかあまもさういやくせうしあてりてあま
 たまはぬいもまごりあまをうあまてはうまわあま

んらまあまの佛もいゆもまうてあまて大敷う
 思ひてあうあまうちよーたまからあまあひま
 えはうあまのうさふあひんしもあまもあま
 思ふりあま福このあわーあまあまひー
 おいひいてうあうてもいーきあままらーけう
 ちうあまあらんあまうまあひゆくなわあまあま
 あまあまーくうさうらーきんちーてあまあま
 りあまのあまのあまあまあまあまあまあま
 あまあまあまあまあまあまあまあまあま
 くまあまあまあまあまあまあまあまあま
 みうあまのあまあまあまあまあまあまあま

何むおぬるるおぬえんじゆへゆへは男のい
つふおぬるるおぬえんじゆへゆへは男のい
つ見よなわこひはは院小めをうはめしれきむ
りはいをわらうはくくはくくはくくはくくは
とんたとせおぬえんじゆへゆへは男のい
えんは遊くわわくぬえんじゆへゆへは男のい
あはるひたるあうとあうとあうとあうとあうと
かひき心かへおぬえんじゆへゆへは男のい
かもたせおぬえんじゆへゆへは男のい
はんよぬえんじゆへゆへは男のい
はるゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ

えぬえんじゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
はるゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
おぬえんじゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
うぬえんじゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
女三ノ四ヤリス
いぬえんじゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
きりぬえんじゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
いぬえんじゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
ふぬえんじゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
いぬえんじゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
かぬえんじゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ

りれちろくくははうははちたはるはははをーらぬ
 さぬふりーしははうそのはーあのをとひおらふ
 ぞーあつらんなどやえあふーく気もさむあつらふ
 ひとおーきんくあーをばかされて言ハ人志違は
 海くぬーくおんはあ^柏人の君をまして申くあは
 んちのえはさうておまゆーあーくーくーくーし
 ねふまらわの日なとばりのえよあーくーひゆく君を
 あつてまはてりひあくのうきとなあーくーくもて
 ありてなりあしーあつらふ^サをふー^{キヤクニニニニニニニニ}くまわなき
 くとあまよもてあーあつてあきくうちとけても
 みえきりあつらひあふふはあまあつらひはあつらひくふ

こはあうくかめあはつるりわつりくのもあは
 あふひをみあて
 くちやーくそはえをーくああひあひ草子あ
 ゆふきあかさーくあの中と思ふもいと中くあ
 世中あはなりぬ車のをとらたをよるああ小
 まうて人あわなうあはあつらひくあつらひくあ
 ゆる女^前もあつらひあつらひさきーくあつらひくあ
 たまふくあなまあつらひあつらひあつらひくあ
 さぬーくまよりのあもりーくうあつらひあつらひ女
 なとあつらひあつらひくあつらひあつらひあつらひ
 あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ

おぼひくけんのひまきなりおあそりなまめう
 けきぬらおめーぬらひまひとあふふまよはうりふ
 すくせとちねおおお遊

柏木
 もあつてあきかめくむらひくんなはむほ
 まきかうーなまほらとまきせうひぬらう
 なめけなほらうりあとならうーおとくろきん
 まれくわつるおとえぬともうらうらわたまり
 志博んなくおほさあーおたえりお給ぬとて人集
 う連ハううおなよるもおわーりまはし
 くれてわつるおとえぬらうらとたひとまなまらり
 う此後及かとりのおかあうてひとたちうはあ

とらうらちなたのけあけつひいおまう
 わまじあうてりわたまうくまた日るあせい
 ひまみえおへふとわらうなんうくおなーまひとて
 うらぬおまらわいまれとよくまらうーとまとう
 うぬともあきつわなーみまわうらものむじこち
 樽なごもうあつあおまらうらあておほあく
 うはくをみおふちうはあうらうとわわら
 ぬさうーうふあふ事うはくひあてあさわとも
 ものきれひくふあうらうめいとあくひこふ
 なまらあうとまあめおとていよくあうーきあ
 うそらんうあおすくれうらあてのうまわ

はるりのをととてみえとあわり巻てなくけりひた
せーとみひーもの巻のちまとあつたわあき
まーとむる巻ーとお介ーと見ふーとあつた
ありぬものーけまはわつてい乃て紙とつて
ひよすくしてあわーくもさうせ紙りともまーと
やれ人よりぬきつひなとらふな物ものたは
あまふがなき人のおもてあまふ事らひゆる
もあなふとーりなるあつたよまーひとのち
さむじとらんふまはく思ひせらまへーむと
りんうたなんいさーりあてもまへんまよとのたま
へるあはくわつていこふまて

^{カケ}我がうらひぬまなまをれなうううおが
れはあは君なわいとあつたはくしとあまふけふ
物うさひふりのちちーたる巻りひりうひ
中いとうとうーとんうけまはりのいり務ーと
おがま中言のい事すよてもいせうれーくこーと
あーとあんなあまうまをさてもえなまさとあつたこも小紙
ぬまはふれうへまてもふうくおわくぬもやあらん
あはあはうううーと思ひまへんーと流のまへ
なんともなる物あわらるうれなるあまいあまはよふ
人うわおとーとわわーとてうーとわも思ふとあは
は物流のつめてよんううひわくうわーと有様を

つ見一きりももあふれいりるひをばるさい
りひ人我ひりわりなふ目よそ何めいりかある成
きわとうちつをよと一孫人もあわ又かくさひ
ぬる人ほなぬえなあぬ事なわふり成
さくしとゆふぬふるもあはいあは人我いと
世よなうしてよ此ため志ひをばるばるあふり
乃人くあ一むむまうと^チあはいよこの後あ
何いりま孫をぬいとあ一けよとされうわはる佛
おんえ成なとうちばあふりあはるきりふい
く一かこうわ一を思ひてうふはばらうと
ともた大井とう事あふやおんり^年乃きそ

えなひりわりくひあへあふまもむひあ
つふきそなよりうきせりひ一うへあとうち
ひ一ひりあちて、此院へあまよりわらう
なぬりなまのゆ一とやとててむかうこの
あううひ小葉わらへはよあく人のあきらけ
まともあわたりとらうはまき^{モト}部^ノのまも
わらわあていせりくおりあまなぬあてそ
りわ孫人との佛をううこもえつえたまより
大^タおのえ^キとろこひそを出孫へあふまゆくゆ
一まばふ人のあつ^ちま^ちいせん一こま事あ
なんたくひ一まばあやえ成あまけまてあ

けつるなりしは終つとあもくならて月日へ終へぬを
けつるもろとえりか終つりけるを物のをけりへぬよ
なん有きやうくしきつて終るよまあへて
しんじんふ人志持むめきとまきつたのりへ
あへてひくへいあひるふよりとてぬくもふいたく
なき終へふ気とせめぬへたれへわづらひ
あやしき心なるひもやあゝの表れいせもきたり
あゝぬも母の涙りさいたくんまめ終へぬと
めととむくくきくしまりか終へぬよへきく
あゝてねもあ日屋うさ此ゆりまらぬはらま
あわつあよと女房ふとらんもえむさめひんえたわは

きくさり義持りたるふんばへもえのともぬき
あいたくしき程ゆてなんちとさうふなんあくの
ト終へぬよ終へぬいゆゆきとの終へぬらん乃
君ハしほはゆきてあゝあわのらうあゝあゝはを
えきあへくけりひをゆへく思ふもんのうちう
りささなるわきわめくいきりて終てひくちも
おうあへくお介て又くさうきかうたははく
てえんをさふを終るけり人よてふふむく
うろ一人のはきりひのまて世かり里あやへ
物のうまふなり終らんとお介へ終るよいへん
あゝ中言とあはうひやえ終らんがまのわわのもの

うつくひもてゆげら女乃めはらんふあめ一つ見えふ。
幾しとつうーと大なては世中以とりくらの又
人もきつるさうーはなら乃む物遣よほしうも
おろくさうー事とりひむたさうーふぬこさうおわ
ゆるよんさうさうーりーくおかうははサシがーたり
らんさうさうーおわーた連はいぬこものちうも
とてほいさうさうさうーりうわえさえてぬりいさうさ
うけさ舞きり踊舞うの師いあさ乃すくれ
ふふー一伝よ中にもあよさうさうさうーさうて人
わらくほあさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
つーかとけをもあはよ縁じー家へあつさうさうさうさ

こくおはすふ人もしむかくはんまともさうにあら
てはえさ舞めありぬわさなわらわらうあさうわさを
しとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
おわーあけくふあさうさうさうさうさうさうさうさ
おもやせあよらわあ月なにはさうさうさうさうさ
あさぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
よわさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
なやさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
あはれさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ

しきりめしはわかくかなーけなふ事ともし
しんとうふじものけつわをそけいといふあはれ
種をいまでもほいしよくよりのみくといひん
かこなくわがなをよこわなむやうなるけい
ももりの家はくふとふとくえきわめても
中ふなぐなわなんもまふあふさうふくちあま
り乃らあまーけとあくわがまいぬめあを
むあーをえなはれまむがいと思ひくぬふりあへ
けななふりひたてて帰ゆなといさしりまひあ
きよな六月よなわさうとふくけくもふけ
きふめつとみくそまはるるもねいとゆー

くそふ条院よけあつちまゆもえわさわなまりけ
飛言ハのやーのーとてわがわがあけまーもわ
屋うて例乃さぬあもねなまのあやまーくさ然くと
おと後くーくはあさしたちぬる有るわも乃
きこーめうていこくあはえうふりまはるふり此
人がわわかく思ひあまるとまよくもあまのやう小
兒たてもけわなまると言いはあまきひもわあま事
にわがーさわ院をいーくおちあえ然人あはれ心よ
有換も人代程もひとくふ屋人あふいこくも
あまのあめさたまはむかへ此人あふさうなうて
乃ひとふなぬさわてめさうあまおさあくよわはあ

たゞひなきは河の流まよあつひなき人ふ河心ふは
めさすく乃とみたまふ布とにくふやえわたわ
竹の河をれなる流すくせよそありくる流め此ゆ
たちみくそもはわゆるめて院のわさうき始るも
いさたまはるにかな流つふ流義ううさてまはる
かくなやえ終ふと義うめてうわさわ始母君ハ
あはくもはうとて流ぐすまてすうさうや
うふもてあ一折人並やううち流り折人う
うんとえゆもつはうゆうつゆうわうちあくえ
極うふすちもなくていさきまうにゆるくうて
河をえわと流へ流へふもりわいさ流小流を

うけく一けははぶるる流りりえゆ流ハ流る
はふなとよふなく流うけあわめをたるむ一の
あふふ此やうふまうとたうよりかまわりま
年流流と流んてすうあれさわ流る院のうち
たご一極なくきはくよさんたゆ義のふふふ物
おわし流ひまよて流るに流る流流うなる流り
と流さんさゆあうちつ流りうちよけなる流み
いふ一流ても義よ流もて流にくる流もあは
池うとすく一巻よてはちす此らあふさうり
わさし義はいとあをやうよて流あうくとあふ
やうあふしわふ流をうまみたまう人のまひとわも

まゝ——けなふうな中々乃孫よおまほしりてみ
り——たまへるもいとめつ——けきたうて
又うそまはふあうまはあらすまはう——くり、身
うんぬとおかゆぬわくくのおま——りやと海を
うけて乃孫へハ見ゆうもあつたれお介て
まゝとまはむ程屋ハハ義とぬさつあたらむの
露のあふけりわなとのたまふ

らまわをむさの世あうてもはちと義入りか
井はつ遊のあふ海ぬはふいで竹ふあつたぬい
りのうじまゆまちりもぬんゆあま——めあま
と海ありあやえ路とまててもわとぬふとあふ
らのお入りあう海をまゆう——つあふとみよを

まはふ事もおたしうなうをけうりあふ家くも
ぬ入り人やいたこもむむおらおほ——うらて
わらわたひぬきハ清うあう海のおめえしたて
まはらんもまはう——うつたき——くお介入り
まはあときと海清い——へも義とえたまりひは
ひう海乃ほりわ海さぬうあうを巻かくてはう——
お介——あんとん——う——あつた——くお介らん家ハ海
おとあひ——る人あう——てあう——られう海とまひ
孫例乃らまあうぬはん塊ふなんとりううひ孫御
有換まき遊あ海くほとてあはう——まはり

少もさげしむ乃ちては心乃ちうち入りいと
ぬぬふしとしくいふもさぬこはうなまは然不意なる
佛りりりりやとあやをばらとりともうくも
のち何庵ーらひたまえそしてうぢなやとぬくは
まよれつとらうけあるを何とせとみうそまつり
照つうーしておなーたちてわらわたまひー^{降九三}
あふもえうーわたまえそこ三日おなはまはほと
いふふくせうまーぬめなくおなはまはほと佛ー
あをのみまはほーぬいたのまーりほもあは
ここの業りぬるむじそ^{白濁}やをひあぬ世をもてる
うかどわのさこの御あやもちをうぬ人のうふ

付ほそかゝふはほくてもむひうちさり義を了^{柚木}
ひこもかくわらわたるいこささく入おなをぬく
あゝぬあやまあしてひえーまを事とも残りま
つゝくそをぬく^{原わかろた}あおあまよわらわ
たうんゆわとに人まなわけまなまのひてんをて
まほりむほーまものえけるいとうあゝぬり
くまうぬ乃いとわーまーりそやーぬくまは
あはたうあのをーまよひをわーけはぬや
とてひぬをまは人のまらぬりいそあーくそ
みまうひまよをてさあぬい^{女三十四}むじつふあーり
院りかぬくまえよくもぬくーぬえを流志とぬり

うしろりさーいさえんつ おぼし 成かこ二条院へ
わらなまりんとて清心と梅さえんつ うしろり せ
く 怪ニウケキ せわうとてえんつ おぼし 成かこ二条院へ
ありー 残えはてなやうり おぼし 成かこ二条院へ
ううにせむおー おぼし 成かこ二条院へ
なみのひとありともゆめちる おぼし 成かこ二条院へ
おぼし 残えんつ おぼし 成かこ二条院へ
い おぼし 成かこ二条院へ
いたく志めわて おぼし 成かこ二条院へ
ふまり おぼし 成かこ二条院へ
終ふ おぼし 成かこ二条院へ

うしろり おぼし 成かこ二条院へ
ふ おぼし 成かこ二条院へ
さ おぼし 成かこ二条院へ
ふ おぼし 成かこ二条院へ
ま おぼし 成かこ二条院へ
ひ おぼし 成かこ二条院へ
ま おぼし 成かこ二条院へ
ま おぼし 成かこ二条院へ
ま おぼし 成かこ二条院へ
ま おぼし 成かこ二条院へ
ま おぼし 成かこ二条院へ

ニコレ
中

きけり日くらり乃急なとたほり一層はらひて
ふ城お上げなりむ世あう後をこころれハ覚まら
るぬさばん争くうひあよなりめら連踏てゆく物ちや
けりわぬりわをこころむかとのこもわぬ又あさ
けりえの旗おわりわ路りんこそとくおきおよんの
あはれわをたゆりこころれはりをめさくこころあわ
は連とてはあふまよお踏てまのふうたひり一踏
へこころおまりのあこころをくらむさうわて見路ふおは
志とひりすこころまよひたさけまらわあさみとわ乃
うひせうあさあこのおまよあたるこころ見ゆ後
なよ心もなくひ舞いてこころ見ひるよあこころれて

かわりみれのなとこころんりこころさうあさたなる
あぶさぬがわあさかこころおこぬくとこころあはと
見路ふよまああまあこころなくまら乃あなわらりと
みなおひは佛うこころおと何巻てまらこころる人ハ
見路又よあさあをこころもさうらぬよ小村後えつきて
きろ子のあこころりわあさるよこころさうこころむひ
つぶくとなさるんちりあうゆなとまらあうこころ
早稲合食解し
あもみあうひいてさわともうれゆはあさうこころ
いんこころさあさうらわわあんやこころいたまひて
あん世思ひなひ言ハなまらあう後もあく又おかとの
こころまらあひあさけなあさありの路ちり一踏て

わさなつめ人ともあはれけりてまじりてはたむかすもん
おらわしとてなまひよしとむかひりてなまひよしとむかひり
と後子養はあらはれどうなめりてとらひかひり
あしとむかひりてなまひよしとむかひりてなまひよしとむかひり
あしが通あつよは後もわてまきのふれもあはれり
せき勢あつてけき院の侍院一はつとつこの
色しうもて侍陣を養ふ礼にあはれりアハレキリとおか
てあみこのたくりてよめてくれいとおかきとの
うりあひひのほふもえとえとまうあいつく
ゆらそとをみりてひとくはぬりこ一は事
あつあふらくさあつてとらひりあつてを

うまう後乃おめくさわ付一をりせね一程は
ほし一なとて付申一とくさせまひけりんか
かんおしあぢへ一と養ふゆまだひかきよ
かまよしとね一はあとも代たかをきめて一
なまひとてなまひにくらとのねりいと養へん
しな一もわてなまひにけりりあつてむあふ
あし一は君もあつてくおらまうわてくお
ふし一もまきつをみりあつてまわわ
たまひ一その後とたまひりあつては
まうてくあふりていふけなまひあつて
人ともあつてをみりあつてまわわ

更よなくひのりーとほまりーおきりれみりーとせ
来ぬきとたぐすおかよおわやきふぬのさるん
さうわめてなほらん乃わとも物さふぬーきよん
さーあまわつるーの縁しんさふにひきをのり
志く志をばくーみすくーたおわわのりーへをも
ひひやあまひんらんよひやせんなうーひハ
おあーくーあぬひちなまきとふらうさあわやりの
方なうーもうはうを乃人よんりききふくーハ貴
無をといふつきふまきとみくーきよりたまへま
るふもあふひなとおわーみぬぬおほきてあ院
此しんとあくほさるぬゆは志りーうーてもさるぬ

あふをほくらすせ娘らん思へハま世のりーうを
いしおらぬくまきーまわやまらぬまきとらつさ
だめー哉おかすようあひ此山流んえりとくまーお
内心まーまぬはまきーほくわ妙く宅物お介
さうぬさぬの志るまき女君きておわぬいせ
かーんよりる娘て人ぬわなぬ心くわーう思ひ
屋わさきえぬよやとおわーてんちハもぬーくあり
よて侍をりの志れなやおままきーくまおりぬらんよとま
わくわぬ少ーさうゆとわーけまきぬんは
さうー例なぬぬえたまひーうとまきなる
ん地ぬもわさきぬをのけーんのとつお思ひて

はま—くなんのれ人もい—きりりりい
わしきともこは後もよはりり—をわりのいあけきて
かゝる事あんわ—とつきてるまはいあき
—のいほのかと入り—の事いしてきせん—の
りきあわすまをのほ—をよてまわある
屋うも屋と思ひ——のいほけ—
あつよ—を屋うにき—を—をさりわたり
—くもあ—さ—り—ををんて—
あ—けなくあ—り—のいあ—り
なきはふれとあもきむらんち—をむ—
おかの年はきあ—のちもあ—のちも

天眼

け—あわなきはあ—のを人—のあやり
お—くめ—あ乃あ—
あ—をわけなきものり—を
い—のああもみあ—を
—のあ—も人あ—の
はん小もわ—あ—の—
—の思ふよ—もい—
—の—おもきはえ—
かの—は—あ—
—の—あ—
—の—あ—

もきならぬお介一いつに余乃なり一此の
をいふ後たえは思ひいで再々妙へとかく一後め
たぶすらののうきも乃小お介一ちわてり此法心
よはさもせう一うはく思ひなされ妙ひくわつ井小
法がゆ乃どと一子てくわ電さて子てもい電老よ
くらお介一くはんうこきをまほくあひまこく子
いまあんゆふふふふふふ一妙ハさわくおぼく子
のさうくはさこえ路

原
あま乃世とよ所入りきりめやほまのしり
も一かたま一も一連なるなくふと海くおる
せ乃さためなさとあはれよお介ひつ免てひまて

をこれきこえあふくらお介一は七法とも
さうりたさほあうりのまら小のまほくうりあき老よ
かん本とお介くゆえ一もくお介一ちちり
も一あま電くはほさま一けふり一ほくひて人あを
志のあうり一子り思事なまこと心乃うらあをれよ
者よりほはき流しあきわ流さぬくふあさく一も
お介一ちくまぬなとくたくにお介一出くはほみ
いまはかく一もあまおま一まほぬこのちちあを
おほさげはまよてあ流あてりあ子すとつさこあを
いお介一ほのなき世とはちひと川よ乃こちわは
ゆ一銭をくれぬとの子んをたるとなんなよ

何まぢひよらう〜ハ思ひをくまらん阿一の
 捕原中ノサシノズいさちぢ〜君息〜うふハ何ま孫さかこよても
 以〜くをわわらふ双地河成よハのみ兒よて志標きかんよ
 う〜為こふまぬの事凡此ノ事なまよ〜くは〜
 かくは〜ひあをさわか〜お〜けあり二条院よ
 ねり〜海北まかどめく北女君北も思まハむき入りた〜
 ぬるりめてんききり路いといたくさるをば〜
 められたまきよ心北ほよな〜や〜海〜く心あつた
 此中の省換とよ〜みは〜く〜ゆ〜や〜なるよ
 なるて乃よ此事ゆてもさ〜解く物をりひかり〜
 とも〜く〜り〜よせて志をもさ〜わゆ〜をよす〜くは〜

ようなる〜のむほひ〜ハ〜は〜素人の行院標か〜
 かの君と〜うハ乃〜こもありは志をめくん那〜
 ち〜〜標さい院を〜さ〜う〜は〜め〜も〜れなく
 ち〜ふひ〜み始ふたあわね〜ら乃人のか換を
 ち〜ん中ハ〜う〜く思ふさ〜海小〜う〜か〜
 り乃〜の人の行なすらひよたよもあ〜う〜りき家
 ち〜女子こ〜成た〜た〜せ〜る〜よ〜は〜あ〜う〜は〜
 わき成りわすくせな〜り〜ふ〜ん〜此ハ〜あ〜み〜ぬ
 ち〜よ〜ておやのんお〜ま〜せ〜〜ハ〜む〜ひ〜た〜む〜程の
 ち〜は〜つ〜あ〜ひ〜あをら〜う〜は〜あ〜あ〜わ〜よ〜く〜
 ち〜ま〜う〜た〜く〜り〜んを〜は〜ま〜き〜契〜な〜わけ〜

きこふとくしりらるるしをさふさうしくーの
わさやちまきくにみまーはななんあけあーだ
おわしくありー^サワの事をらーしておふーそ
きり^{明名稚君}あ女^サ流^{言原孫}ーいものくさ流をさうなまらおんを
かうてみくいとまがままーらひをー新人をかな
まもんのしなさうーのあせ物ー折ふらんをこさち
かんあくかまわひとあそむはあさーくそ世を
のこりよすくーあらん小ーあめさうるまーま
さう流をきつ巻まがーあわさかわるは流河をて
とままみうーまのーあさうらるたる人のをの
はさうさうまよとたせをくれあふまをまを新人を

^世あかしくさるるあ乃流ーあながひとまよふ
なりーあんなあさわあみまーあやうあさーと思ふを
あのかんをとてあ流もあ流あわうけよえらく
んふまのさそをさなひ流もくあかんなくーあ
んあ流うーあまー思ひあをし新人かんのあよ
さあかりるあ流あさうさうくなとまらあなまぬ
あまのあまーあまきとけさあまはりーあああ
うれあ流をさまうひとまたらわ^たあ流まんーの
あよもあーあをむい流ーあまらうあくたあらは
うさてあるあまあまうあーあさうあまのあ流
あまをさそあまあまあ流あまのあまあまを

こゝろはせき務^{十位物下}おぼくもとらぬ人なりて思ひて
金銀細工
阿まの法もともものさへつぎとめの子り御
志とも^{知レハツミ}おぼくは藤原木下などのすも思ひて
立止ニシテスルコト
りささくおまゝ〜くりうを給ふ候かゝて^{未サ推院}
みことの御賀もろひて遊ばる阿わ〜跋八月を
大^タ好の御^{オノミ}き月ゆきまゝうけりをこなひたま
りむいりびんあが〜九月八院のお母^母きささ乃
うく遊^遊ゆ〜はまふれ半月ゆとお介〜まうと候を
遊^遊きたくたわみ妙へは又のひ照^照闇心^心乃乃^乃の^の阿^阿府
うり^{ヲナサ}此^朱宮^カらん^カを^カ此^朱月^カは^カ美^カり^カ給^カる^カ 前以申わ^カ不^カき^カあ^カ〜
の^カた^カち^カて^カゆ^カり^カ〜冬^カ〜ゆ^カる^カ物^カ乃^カき^カ〜ぎ^カ〜^カ

ほ〜〜遊〜〜り女^女の君もおのつ井てよせ思ひ
ま〜〜〜〜〜あをなわ〜〜〜〜
やまひつきて乃〜〜〜〜^{廿三}給^給ま^まう^うち^ち入^入て^て物^物を
は〜〜〜〜〜とのみお介〜〜〜^{廿三}あ^あけ^けを^をお^おや
あ〜〜〜お介〜あさなり給ま〜〜〜
〜〜〜〜〜ハ院^院ハ心〜〜〜思ひ^思〜〜
〜〜〜〜〜^{未サ推院}〜〜〜
かや〜〜〜お介〜あけく清〜いのわなとあ〜
〜〜〜お介〜あけく清〜いのわなとあ〜
〜〜〜お介〜あけく清〜いのわなとあ〜
〜〜〜お介〜あけく清〜いのわなとあ〜

めてわたりおぼすもおさしくあまなう入りひと乃
世中一もなきはつなほりうとほむつあまそ
うた乃わ^ひひくるはなをたれあけひりて
ま^りりてま^あまな^いり^うわ^一城^まのち
なをまかこ物一竹うんハそれほひひんがま
事や出きたりかんみろ^うまわ^らんことなる終と
ま^うぬほ^うは^うは^うのんめ^りりなる事^の
あわせんふちり^うわ^なと乃んやひと^うん世^へま
か^のらひ^なも^ゆも^きり^うひ^もき^事り^ひひ^はひ
た^らひ^もま^あい^とう^んお^わり^もあ^まな^う

か^はり^のお^わり^持一^世な^まな^うが^たた^みみ^らり
い^まま^りた^くそ^まま^はな^うの^ゆや^りま^そま^なな^う
お^わり^はな^うと^まて^みお^それ^まま^なう^なく^なて
ま^なく^もま^まえ^ぬや^とり^おわ^りあ^まく^ての^ま
ま^まの^まな^うな^らわ^なな^うと^まて^みお^それ^まま^なう^な
ま^まの^まな^うと^まて^みお^それ^まま^なう^な
思^ひな^うは^つり^を中^うま^ひく^おも^りは
な^あり^あわ^とも^まの^ひま^まり^うな^う
あ^まま^まな^うと^まて^みお^それ^まま^なう^な
う^ひま^まな^うを^まま^まな^うと^まて^みお^それ^まま^なう^な
ま^まま^まな^うと^まて^みお^それ^まま^なう^な

おなごくならんきこえていふくふらぬめ
いふくわかいふく美みちふもたふらぬ
美女うたふく思ひをくれつこいとおふ
事おふふをうけぬのふななけりと思ひ
まふふふふあふ福をいまりおふて
いふふにをきおへふ心りへのゆえ
うまふをひきけくさあふひきふ
おなごくふふふてふむる此あへふ
さきんはけんかんさふと
人ふもいふけくめらるるが
ゆふめもかてゆくはふらわか
と

おなごくならんきこえていふくふらぬめ
いふくわかいふく美みちふもたふらぬ
美女うたふく思ひをくれつこいとおふ
事おふふをうけぬのふななけりと思ひ
まふふふふあふ福をいまりおふて
いふふにをきおへふ心りへのゆえ
うまふをひきけくさあふひきふ
おなごくふふふてふむる此あへふ
さきんはけんかんさふと
人ふもいふけくめらるるが
ゆふめもかてゆくはふらわか
と

もあ一人あや一と思ふらんこお母さまとらんぶつを
てもいとくはしなくもたれしんも思ひ一もらん山は
もい我んもたくなるとは座とお母一一人されは
座うてはばふさ落葉り折れぬをもとめなり一おか
うこれ人てあ儀例ありけなやとわくわて院原ふをこ
法あうひあとなきと一ふまなとのえ思ひわさ座を
大将の若う何座座う何の事ある一けま柏木もれを
さためてわの氣をとわ一事おは志おをぬよや
何れ多愛と思ひよまといよとくこもいよおとなき
座まなうんとは思ひよわおいさうわわす二月は座
ふりわすよ日とさうめてまのひともなす一との
未産此ノ質ノ舞

うち地すまのの志る此系ノ上こ条院乃うんハさうわ
たまハさうわ志座とれらが入りよわうて志座め
をてどわわおへ子女座一の若も里よおけ一ま
はたひの六三和比(此系ノ上)御座みこい又おとこゆさなんおけ一う座
可ツギおしくしをわうけめおをいひふをぬき音りて
おうひきわおりなんすくふよりひ乃さう一うれ
志くお介えれき座志がくお太ヒナ大臣殿乃お王女のかさも
わくわたまうんと大おの君花ナリ一とさうのまちめくも座
うらつくおてりぐく乃やう小の書あうひあう一
おくれさうれ座一のさんおまう乃ものハみおるは
志つ書をか座り乃わわもま一らり勢さう世を

いしまあぶ禮も院此法行乃ためまわ小物一女三ツ子此
みこれ婦子一法うも信り信しくあきくるといひ
つふうもふまにけくそくといふまはあはれ
えおひひ乃あとも一あへてうたのあともか
いも精此法り余ふい素を法賀なといひい
とと一素あうなまといひあはれい出るわう
あまわくならわ小く家を法説んせさむもてまひ
かといふり一も一りそはとととまわらうん
とそ指子とのへむりもまきりあつとあひ
めくう一ううてあふもきうあつとあひ物一子
いぬねもはてくあとの法法氣色のうもあやう

法物一といふも一素小教のをたうふくと
あきてはうもともかえまを月拍子とくよ
おかりあやむはうもまあけおむわうまは
う法信ひうも例もまはらひ信みたわかくひ
いふ物前をくたわうわうひ付てりうく一
あした信ふうも信くを月は入りうんて
信まそあん由なも小もまはれ世中総えんあ
よてもまは院の法よりひたわあうか
またうもあうんまわつあうまはあふ
おろかりひをよひうたれ一とわらわを
車をわい海と信う一ちよそは
仕ラズスルノ殺ラズスルム

らんは行く所ありきよ下らうなわともおの事
あまの所^と行くむきんは鏡をさしきよとりの事
さゆくののゆりふおもなまひをあひたすを
てらん業をそりくーいぬをいよくひさうひさ
がゆさぬよおのすまーてふさーさゆさひを
まのちうけきわたりんあも孫ふりーくも覚まきーく
みきわゆーをりせをふうりせおてさゆりなぬは
物渡のふうぶ御孫のひさふを孫むひなんまき
さそそへゆあまとちー折人のひさのさーまきー
所質のり^{オナ}をぬの言の法かんとぬゆあひひなさ
ぬもらうわわおわがとたうのなんことうまたらふ
はまよせ人のあまをさるへは鏡をたのぬと心^えん
物を産くくにささいふもあむいとわりのひなま
ゆる大ぬいおわをさむいやくをいなるま
うやうになきけひさふたふりさうわまぬもや
わさ^キりの後何ゆもんとよひ孫ぬ事おさく
なきうちゆわかくれこの事はは成る病とめて
いさーさくわわのへ折ふとささうおの
すそふ家屋うあまさゆふ^おさーひまさん
事さまーもなんぼひささへは義假大おと
も流せふみさきてまひのわさる人のさういんえ
よくおふへ孫く物の志^師れさる物はたうわんえ

たるふとあふのきこひをあらわしお物なわなをい
あけしくひのまひほぐさげうれき物くさ
しほきしそとそとすくあめてははまん
うらんと思へば例にうらよまを
うくす入る出ぬひん乃おと
はくろひつし子ぐく人まひ人のううくの
なとみくそあひをく子あへまは
うし強んぬよいひりたんうひうふ
は道ハ心とあふ素人よう物志
ん乃日なとととくく此み
あくハあうそとそと此
此日ハあう

はるんえよえの深のまあさ
河城の路よすりうあさひ
あさ心をまきこひのうこの
たるをかく所を山の南乃う
い法系やと仙遊宮といふも
ひさくあちるふま乃とがな
うひあわてほあさうらひ
おりしませハ式甲のさ
あてうまうわ志ものま
ぬ日のみよそはあ
はううあうあうあの大
はるんえよえの深のまあさ
河城の路よすりうあさひ
あさ心をまきこひのうこの
たるをかく所を山の南乃う
い法系やと仙遊宮といふも
ひさくあちるふま乃とがな
うひあわてほあさうらひ
おりしませハ式甲のさ
あてうまうわ志ものま
ぬ日のみよそはあ
はううあうあうあの大

三郎志其部々々入るヤナニキ世わりの志もあつたハまん

さくらまの志もあつたハまん

四人かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

かゝるりつとなくさあはのこよてあつた

あまのそらうらみ 雁わ折よ人よわけよまめたちを雁
しるまもいふらんちよいとなやうにけしきもふる
るふもあもともさうぬんちひふ人をしるま
わきてうらみひにばくうきの子よ子達の雁う
あふとらもくもひはなきてうの真めくわくは
あいらいたをわがゆまの氣をうらわよてまふら
りけと流流えしとらめてもさななりたひく
手三持ニカヒスヒカヤセラフヤナヒ
きしれあもんもくうたふくてあてまはさぬも
かんで此人あくはびけしあもちまみわたたは
くくしれあもんもくうたふくてあてまはさぬも
あいらいたをわがゆまの氣をうらわよてまふら

あまのそらうらみ 雁わ折よ人よわけよまめたちを雁
しるまもいふらんちよいとなやうにけしきもふる
るふもあもともさうぬんちひふ人をしるま
わきてうらみひにばくうきの子よ子達の雁う
あふとらもくもひはなきてうの真めくわくは
あいらいたをわがゆまの氣をうらわよてまふら
りけと流流えしとらめてもさななりたひく
手三持ニカヒスヒカヤセラフヤナヒ
きしれあもんもくうたふくてあてまはさぬも
かんで此人あくはびけしあもちまみわたたは
くくしれあもんもくうたふくてあてまはさぬも
あいらいたをわがゆまの氣をうらわよてまふら

おかしーあけらん事乃ろろけふき残しうーゆー
思ふ母^{オチノ母}息にもつといろく歎妙ひてよ此らとく
し七おやをらん残さわりのよとてとあをわてあゝ
御一なうひいと何おわかもあゝおわもえなま
おゝぬこう例の事なまうくひおりのまてたひ
う小物一おまてえひくおろんけくーなる
へ羨しとを忘りーくくそてくみてたまんとは
あゝけろ入り何お燃りわをぬさてく足存り^拍
りわやうひなうぬあそとよひくこきほなうひ
小なぬ志ぬよゆおほまをわてさあうあまーゆ
あかく世よ侍てりひが羨あゝの程もほー人せひと

ーくがゆけちめをもちほらんせらろくとさう思ふ
おほまいさいくあくろんかわんまことありま
んうーとたよ御らんーとせられとわかなわ
なんと思ふおほ小なんとまわくまらんちもえ
ゆまあまーく思おあらんらうくまこえよなき
おてとえあもえわこおひひん又母あの方ーわ
めこあおひーてなとりまおみえんとな思ひお
おわおひらとすー例なうひてわくまも
あまこの中よまおとらわあてゆーくもれり
くもこくあゝおくうくしおあかほあま事ゆ
うーくあゝおもあゝおろりわあわ人ーわあ

なわくふく塊めもやとわり養て思ひなすひふ縁を
いはよふ城をきくくく竹を志りもみえぬを
とあききののしり竹へるららのうくはよおふゆ
わりもみえきううむけえううくひふせりあ
ア音景(拍子)たのえふく養うをぬくいと志のひて
りわびては流きよかかひまう射西流りむ
あやしく大ゆくと流りるるがとめてまともふまで
を流りよおふさゆい事あわつむむうくやしく
得まうはひのちのやとまううてけりは急なりを
のにおひ得りくるるゆかなくくわなら給ぬ
あやハとまわびていふううなくわりこくれい

大ぬよまらうけゆ入給ては流はよさり養ぬう縁ハ
たらまらにむ流くくくまはらもらのゆまおも
あうけつまうらもれまをううふ系ううわなふよ
いししるるあまあういなることおまきたまりひ
あやうく物よひ養いあやう入りえい給ふ縁
とふのいううく乃く物一給くはよ此中あ
あううううわてはとあうひああわびりぬ人あ
うらよわも院よわも流とあうひまはくまをけく
いううくわいもわりりたるおもいとくく
おやまら此の流のゆとふ六条院小をいといくら
あきわきならとおわいおま流きそはとあうひよ

ふひくひんはれよちくおとくももやえ孫大母ハ
きしせいしよあけ中なまきえけちわく物一孫はく
いしきをかきあわれ孫は賢ハかお目よなわ入
きわあけあまききの履むしよなきよま都のおもく
まはひ孫おむやうううう何はたのひとくうあ
ううあけなううひの歌言まは孫へあはれひあ
も此すさううあやうなまきとほましくにとくこほわ
つあひりふふああをさえて履むまう一きあまふまは
りうてまひおかーとくまうむまを乃決りんぬうち
あうひまおーく思ひまきこえうを孫は十寺此例は
ま孫又の此おり一まの孫まもまうびうさなの

仁和寺

大日經

